高松市創造都市推進懇談会第5期

Creative City Takamatsu

活動報告書

Report

令和4年11月21日

高松市創造都市推進懇談会第5期

Creative City Takamatsu

目次

Ⅰ　第５期Ｕ４０これまでの活動　　*P*２～ *P*３

Ⅱ　高松市キャッチコピー　　*P*４～ *P*７

Ⅲ　「高松市通信簿」結果報告　　*P*８～ *P*22

Ⅳ　第５期の活動を終えて会長挨拶　　*P*23

高松市創造都市推進懇談会第5期

Creative City Takamatsu

第５期Ｕ４０

これまでの活動（前半）

	日程	議題	講師	概要
第１回	令和３年２月２２日	２０４０年問題について	政策課職員	U40世代が直面する将来課題の共有
第２回	令和３年３月１５日	高松らしさを考えよう		各メンバーが想う高松の課題をそれぞれのお題へ
第３回	令和３年５月１０日	キャッチコピーを作ろう	(株)人生は上々だCEO 村上　モリロー氏	
第４回	令和３年７月１９日			
第５回	令和３年１２月１３日	「高松らしさ」の源泉となる 歴史・文化を学ぶ	香川大学経済学部 西成　典久　教授	「高松らしさ」は迷走している？ ⇒独自の魅力を育てる必要性。

高松市創造都市推進懇談会第5期

Creative City Takamatsu

第５期Ｕ４０

これまでの活動（後半）

	日程	議題	講師	概要
第６回	令和４年１月２４日	キャッチコピーを作ろう	(株)人生は上々だCEO 村上　モリロー氏	
第７回	令和４年３月１4日	Ｕ４０世代へのアンケートの作成		事前課題として、アンケートの設問作成
第８回	令和４年５月３０日		(株)人生は上々だCEO 村上　モリロー氏	アンケート設問のブラッシュアップ（グループワーク）、追加したい設問を考える（全体）
第９回	令和４年１０月１７日	高松市通信簿の結果分析		アンケートの集計及び分析
第１０回	令和４年１１月２１日	第５期Ｕ４０成果報告会		最終回へ向けて、分析を完成

高松市 キャッチコピー とは？

高松市創造都市推進懇談会（通称：U40）の委員全員で「高松市らしさとは？」に向き合い、高松市を表現するフレーズを考えました。

高松市キャッチコピー

うどん県には、島旅がある。

テーマ

高松×観光

お題

都会で働くミレニアル世代(1980年~1995年生まれ）の旅行の目的地として認知してもらう

穴吹　英太郎
あなぶき　えいたろう

高松市キャッチコピー

高松の夜は、２階がオモシロイ。

テーマ

高松×酒

お題

市内外のひとに「高松の夜のお店が多様で面白い」ことを知ってもらいたい。

湯川　致光
ゆかわ　よしあき

高松市キャッチコピー

あ、あのうどんが食べたい。

テーマ

高松×高松から外に出た人

お題

高松から外に出た人に高松のことを思い出して、気づいて帰ってきてほしい。

熊野　雄太
くまの　ゆうた

Takamatsu Catch Copy

高松市キャッチコピー

あると思えばあるのが魅力

テーマ

高松×魅力

お題

高松には何もないからと思っている親世代に地元の魅力を認識してもらう

中村　かおり
なかむら　かおり

高松市キャッチコピー

さぬきで息ぬき

テーマ

高松×温泉

お題

うどん以外の来訪・滞在の理由付け

二川　大地
ふたがわ　たいち

高松市キャッチコピー

なにしょん！？ *in Takamatsu*

テーマ

高松×外国人活動応援

お題

高松に住む外国人が高松の魅力を発信したくなるようなキャッチコピー。

大石　麻未
おおいし まみ

高松市 キャッチコピー とは？

高松市創造都市推進懇談会（通称：U40）の委員全員で「高松市らしさとは？」に向き合い、高松市を表現するフレーズを考えました。

高松市キャッチコピー

五感を癒す、高松の街

テーマ

高松×文化芸術

お題

文化芸術に興味のない人が作品を見にくるようなキャッチコピー

三木　優希
みき　ゆき

高松市キャッチコピー

『誰かの』じゃなく『自分の』好きが見つかる町。

テーマ

高松×10年後

お題

観光や遊びから始まって、いつの間にか住みたくなっているようなキャッチコピー

棟近　壮一郎
むねちか　そういちろう

高松市キャッチコピー

行こうかなと思ったらもう高松

テーマ

高松×日常

お題

東京の人に高松はコンビニの様に身近な場所で日帰りでも遊びに来れると思ってもらえるようなキャッチコピー。

若林　友美
わかばやし　ゆみ

Takamatsu Catch copy

高松市キャッチコピー

「故郷に帰ったら挑戦は終わり。は嘘だった。」働くなら高松で。

テーマ

高松×若者

お題

進学を機に高松を出た若者が高松の会社に就職したくなるキャッチコピー

瀬戸内サニー
大崎　龍史
おおさき　りゅうし

高松市キャッチコピー

#高松子育て 発信せないくもんな！

テーマ

高松×子育て情報

お題

高松市の子育て家庭の保護者がいいなと思っている情報を自ら発信し周りにシェアできるようなキャッチコピー

中村　香菜子
なかむら　かなこ

高松市キャッチコピー

高松で あったかさ 味わう

テーマ

高松×飲食店

お題

高松で外食したくなるキャッチコピー

西森　友紀
にしもり　ともき

高松市 キャッチコピー とは？

高松市創造都市推進懇談会（通称：U40）の委員全員で「高松市らしさとは？」に向き合い、高松市を表現するフレーズを考えました。

高松市キャッチコピー

ほんのちょっと海外。

テーマ

高松×都会

お題

都心やその他県外から見た、高松市の魅力。

林　憲太郎
はやし　けんたろう

高松市キャッチコピー

みんな まるっと たかまつ家族

テーマ

①高松×飲食店
②高松×自動車運転

お題

①高松の単身さんが仕事終わりでちょい飲みしたくなるキャッチコピー
②便利な自動車を安全に活用するためのキャッチコピー

松井　佑有
まつい　ゆう

高松市キャッチコピー

便利よりも安心

テーマ

高松×Uターン

お題

コロナ禍で大学や仕事に疲れた20代が地元に戻ってきても「負け」と思わない

宮武　将大
みやたけ　しょうた

Takamatsu Catch Copy

高松市キャッチコピー

20分で行けるリゾートで過ごす上質な平日

テーマ

高松×島時間

お題

テレワーク推進企業で働く会社員へ島ワーケーションをおすすめするキャッチコピー

佐々木　恵理子
ささき　えりこ

高松市キャッチコピー

働き方の可能性が広がるまち

テーマ

高松×住んでみる

お題

高松に住むことを「イメージ」させるキャッチコピー

上原　大生
うえはら　だいき

高松市キャッチコピー

高松の野菜は持ちますぜ、奥さん

テーマ

高松×ごじまん品

お題

野菜をついつい冷蔵庫でダメにしてしまう主婦が、高松産の野菜を買いたくなるキャッチコピー

四宮　誠一
しのみや　せいいち

高松市 キャッチコピー とは？

高松市創造都市推進懇談会（通称：U40）の委員全員で「高松市らしさとは？」に向き合い、高松市を表現するフレーズを考えました。

高松市キャッチコピー

この可愛いお皿、カガワシッキって言うらしいよ！香川のなん？

テーマ

高松×香川漆器

お題

香川在住のお母さんが漆器を出して使ってみたくなるキャッチコピー

齊藤　恭宏
さいとう　たかひろ

高松市キャッチコピー

農業45切符、高松行き。

テーマ

高松×農業

お題

・"農業"が学生達の就職したい職業№1になるようなキャッチコピー
・自分の生活ライフに"農業"を取り入れたくなるようなキャッチコピー

三好　和博
みよし　かずひろ

高松市キャッチコピー

高松には温泉も、ある

テーマ

高松×温泉

お題

温泉マニアが塩江を訪れたくなるようなキャッチコピー

平岡　欣也
ひらおか　きんや

Takamatsu Catch Copy

高松市キャッチコピー

高松生まれ・高松育ちの方こそ立ち寄りたくなる！

テーマ

高松×大人の遊び場

お題

地元で働く２０代女性が「地元にこんな所があったんだ！」と休日に立ち寄りたくなるスポットのキャッチコピー

香西　奏恵
こうざい　かなえ

高松市キャッチコピー

ちょうどいいまち　高松

テーマ

高松×交通

お題

高松の交通は今度どのような形に発展させるべきか。

藪下　真司
やぶした　しんじ

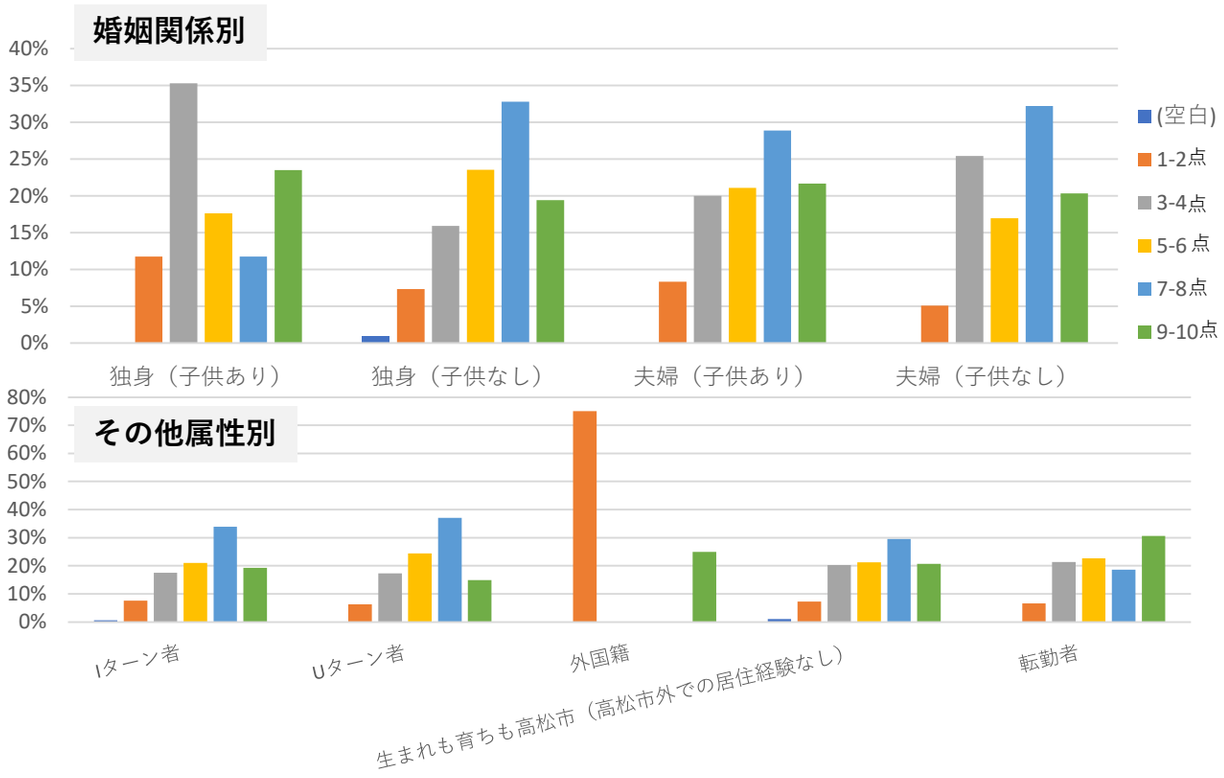
高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q１ 高松は、これと言えるものがある街か？

平均点 ***6.32*** *点*



グラフから読み取れること

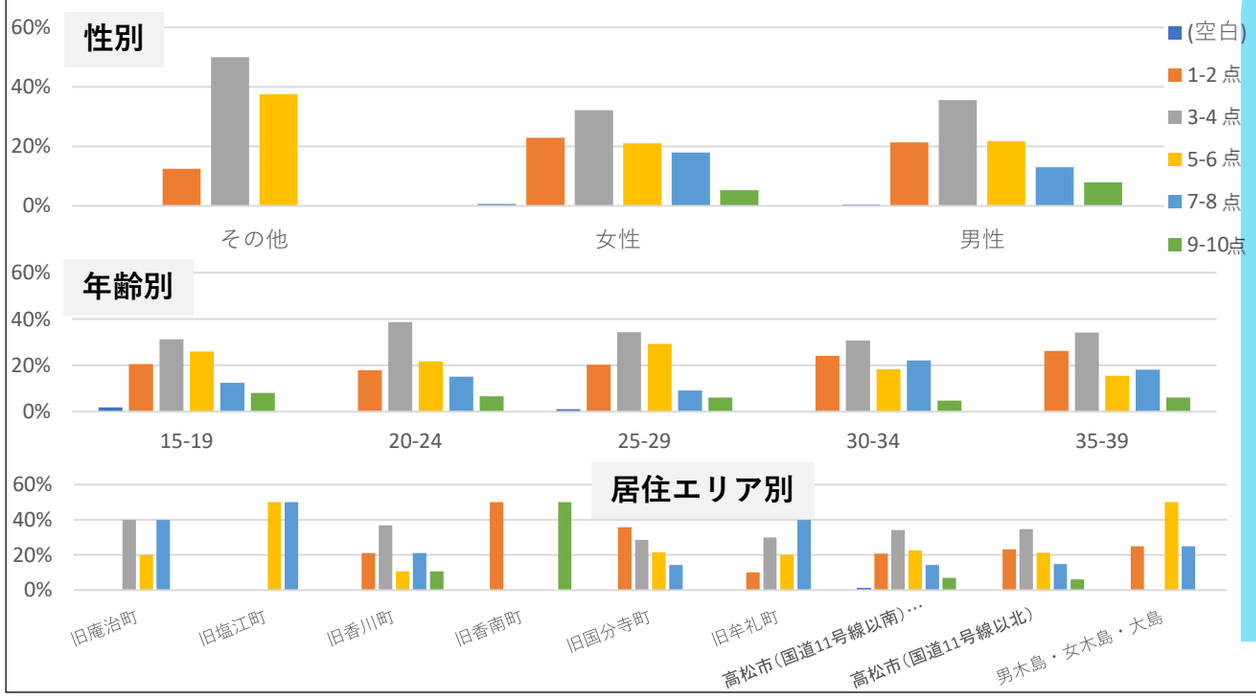
- 独身（子どもなし）、夫婦（子どもなし）の方の高得点の比率が高い。
- Iターン、Uターンの方の高得点の比率も高い。

意見・感想

- 独身（子どもなし）、夫婦（子どもなし）の方の高得点の比率が高いのは、子どもがいないことで時間的、金銭的余裕が魅力の発見に繋がっているのではないか。
- Iターン、Uターンの方の高得点の比率も高いのは、高松以外の都市に住むことで、改めて高松はこれだと認識できる機会になっているのではないか。
- 自由記述欄では、公園の整備や、遊び場の充実等の記述が目立つ。
- 子どものいない方が高松とはこれだと思えるものがある一方、子どもがいる方にその認識が低いということは大人向けのコンテンツは充実しているが、子どもに向けた若しくは子どもを持つ親に向けた高松を発信するコンテンツが不足しているともいえるのかもしれない。
- 私もそうですが、瀬戸内芸術祭なども子どもたちを引き連れて行くのはなかなか腰の重い部分がある。

Q２ 高松の大人たちは「街自慢」をしているか？

平均点 ***4.45*** *点*



グラフから読み取れること

・年代や性別、居住地などを問わずおおむね「３～４点」の回答（周囲に街自慢をしている大人はあまりいない）

意見・感想

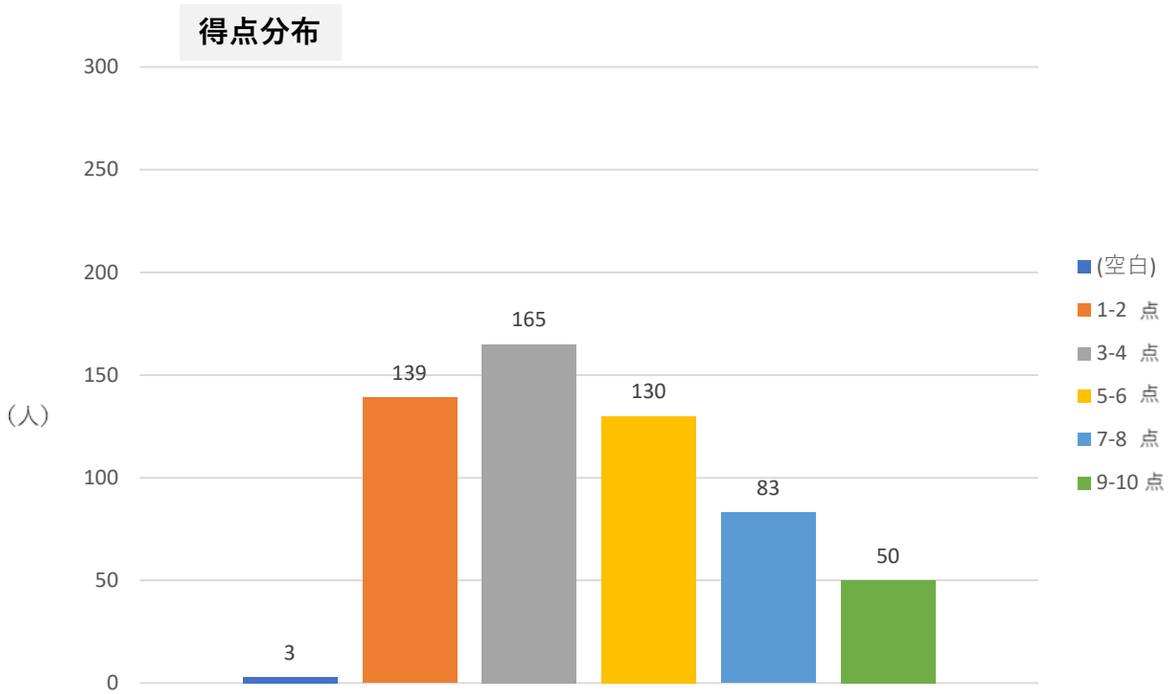
- 「街自慢をする高松人（香川人）」は少数派であることが窺える。
- 自由記述欄には、住みやすさや大都市からのアクセスの良さを上げる声が目立つ。高松を否定的に捉えているわけではなく、自身は愛着も抱いているが、誰かに自慢するほどのものではないという印象（やはり、特に別れようとは思わないけど情熱的に好きでもないカップル状態か？）。

高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q3 高松は、日本を代表する「海まち」だと思うか？ *平均点 4.53点*



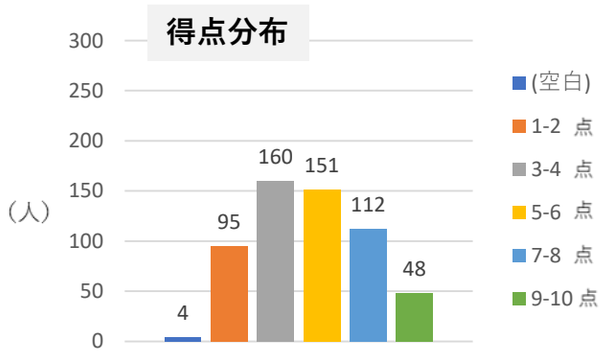
グラフから読み取れること

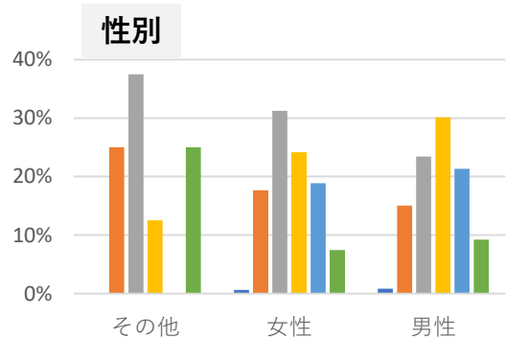
・最多は「1点」評価で全体の15%を占める。各属性の傾向に共通しており、「海まち」としての認識は低い。
・『海やアート、程よい自然がせっかくあるのに活かせていない』（「1 点」評価者）を始め、他にも自由回答には「自然資源を生かせていない」「少し足を伸ばせば自 然を感じられる」「程よい都市機能」などの回答が見られ、「自然」と「都市」というキーワードが多く見られる。

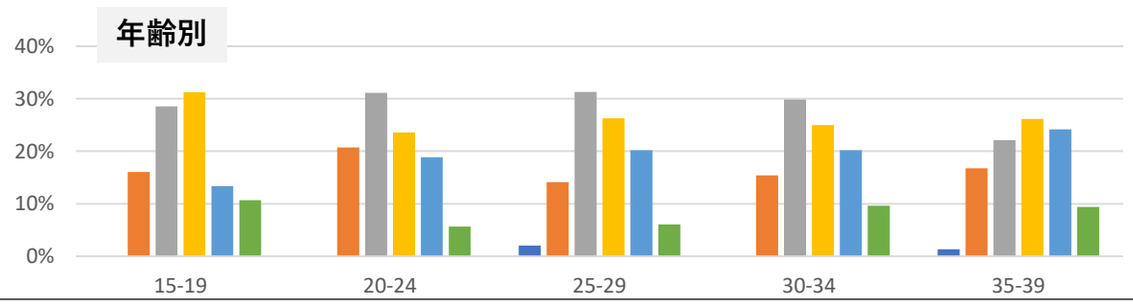
意見・感想

・U40世代の「海まち（瀬戸の都、高松）」という認識は低く、他都市と比較ができる「移住者」 や「県外経験者」にしても評価は低かった。
・観光業に携わる者として、高松の「海まち(瀬戸の都)」であることは世界的に見ても強みであると考えるが、市民にすら認知されていないことに危機感を感じる。
・海を楽しむ環境づくり（ハード投資）はもちろん大切だが、市民や旅行者に「どう過ごさせたいか？」のソフト面が先行する形で進めて欲しい。世界の名だたる海まちに負けない、高松らしい「海辺のライフスタイル」の確立を目指したい。

Q4 高松は、デートをしやすい街か？ *平均点 4.97点*







グラフから読み取れること

・３～５点の層が一番多く、６点以降が減少している傾向がある。
・一方で、１０点をつける層も一定数存在していることもわかる。
・年齢別では、そこまで全体の傾向と相違はないが、30 代前半が 3 点をつけているのが一番多い。
・性別では、3 点をつける女性が一番多くなっている。

意見・感想

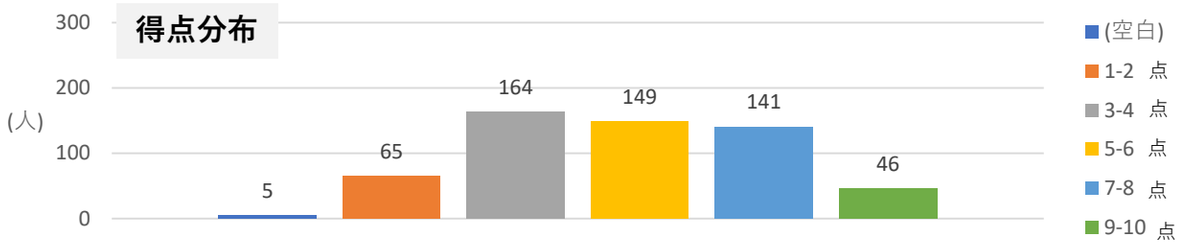
・積極的にデートをしやすい街かどうかは、若者が高松で暮らしたいかどうかにも影響する話であるため、何かしら政策課題として対応した方が良いのではないか。
・デートしやすいかどうかは、自由記入欄にあるように、良いお店が個別にあるかどうかも重要であるが、街を歩いてワクワクするとかウキウキするとかドキドキするかどうか重要だと考えるので、そうした公共空間をつくっていく必要があるのでは。

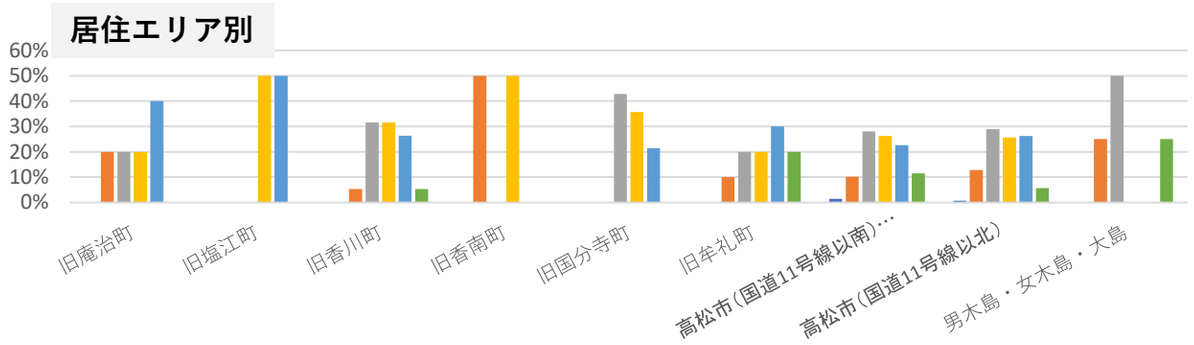
高松市通信簿 とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q5 高松は、SNSで投稿できるネタが豊富な街か？　平均点 5.27点





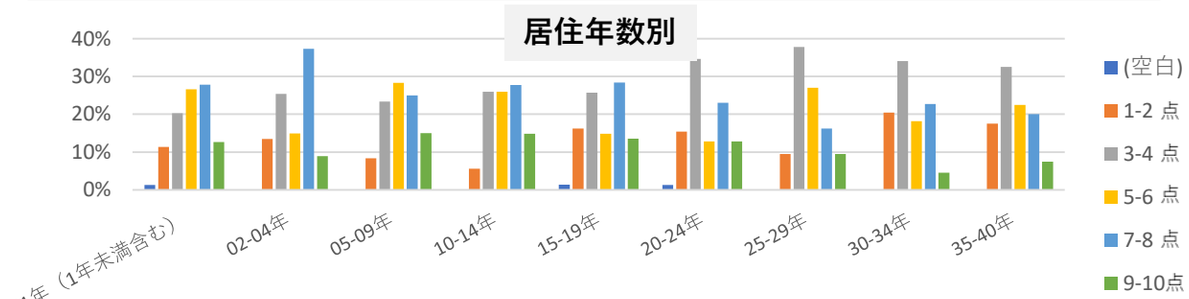
グラフから読み取れること

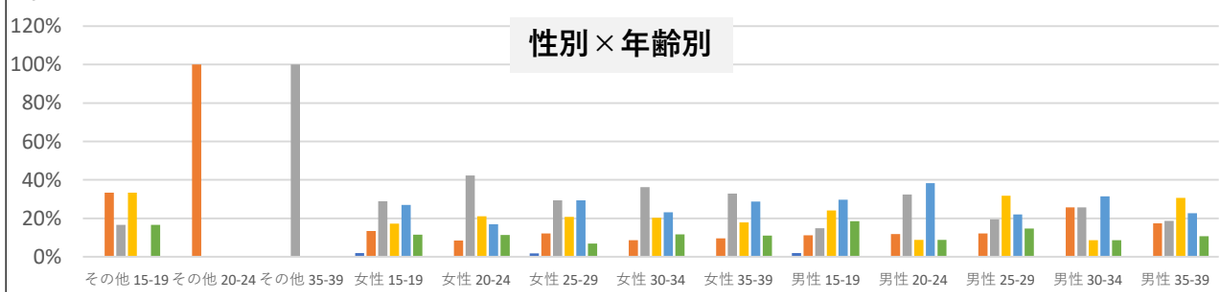
・３～４点と回答している人が大半。
・高松市中心地以外の方が地域について発信している。

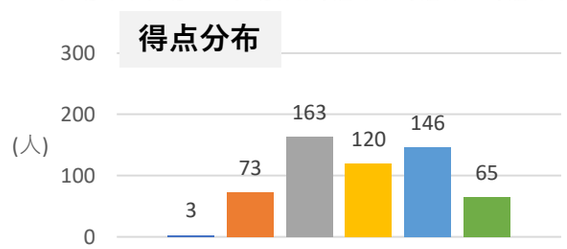
意見・感想

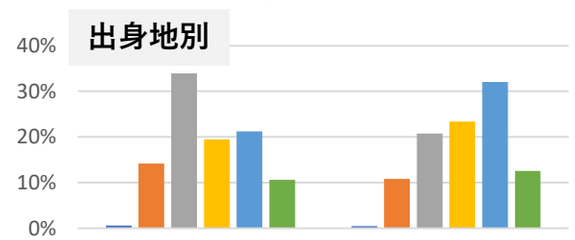
・「どちらでもない」というより「ネタにした記憶がない」のではないか。
・自由記入欄に多く書かれているように、回答者の多くはオープンで利用しやすい施設や公園を求めている。
・交通の便等の整備が必要になるが、中心地とそれ以外を繋ぐスポットができるとネタにしたくなるのではないか。
・高松らしさの追求を今まで以上に考え、実施していくことで自然とＳＮＳに投稿したくなってもらう流れを作りたい。

Q6 高松の休日の過ごし方に満足しているか？　平均点 5.34点









グラフから読み取れること

・高松市出身は満足度が低く、市外出身は満足度が高い。
・居住年数が長い人は満足度が低めの割合が大きいのが目立つ。
・生まれも育ちも高松で市外での居住経験がない人は満足度が低いのが目立つ。
・女性は満足度が低め。
・２０～２４歳の満足度が低め。
・１～２点/９～１０点に突出していることはなく、３～４点/５～６点/７～８点に平均的に分散している印象 。

意見・感想

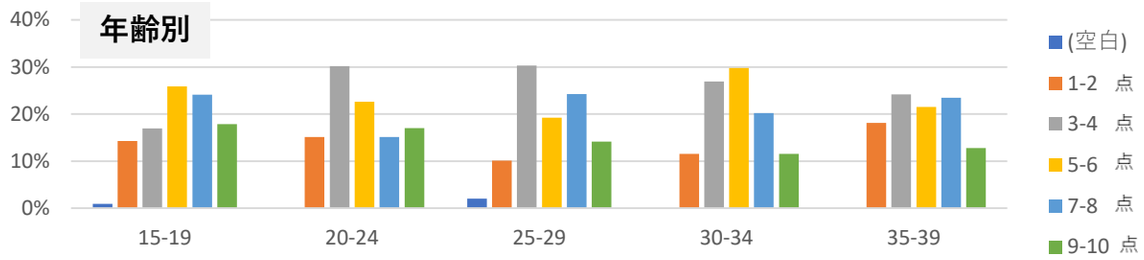
・市外出身の人は、高松市をそれなりに休日を楽しく過ごせる街だと感じてそう。市外出身だからこそ地元と比較してよく見えたり、いろいろ調べて楽しいものを見つけようと行動するのかもしれない。
・居住年数が長い人や市外での居住経験がない人は、飽きがあるのかもしれない。「高松には何もない」と思い込んで、”高松の楽しい”を見落としている可能性もあるかもしれない。
・自由記述欄で、学生の遊ぶところがないとの声が複数あった。
・遊ぶところがない→ショッピングセンター等遊べる活気づいた場所を増やして欲しい→企業等誘致→人が集まる→若者流出の減少→更なる企業誘致や教育機関等の充実（全部つながっている気がする。）

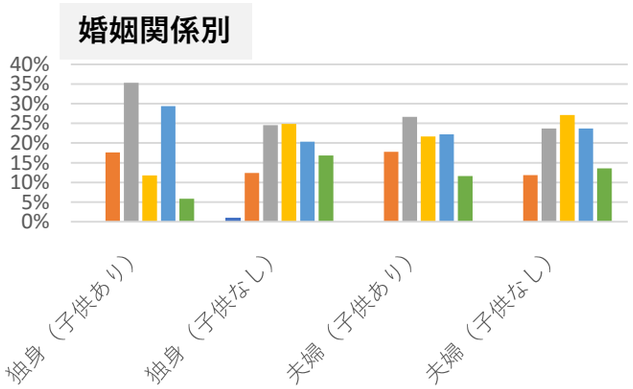
高松市通信簿とは？

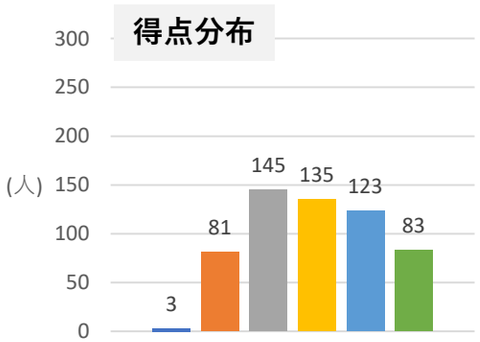
様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q7 高松は、ふらっと出かけたくなる場所があるか？　平均点 5.46点







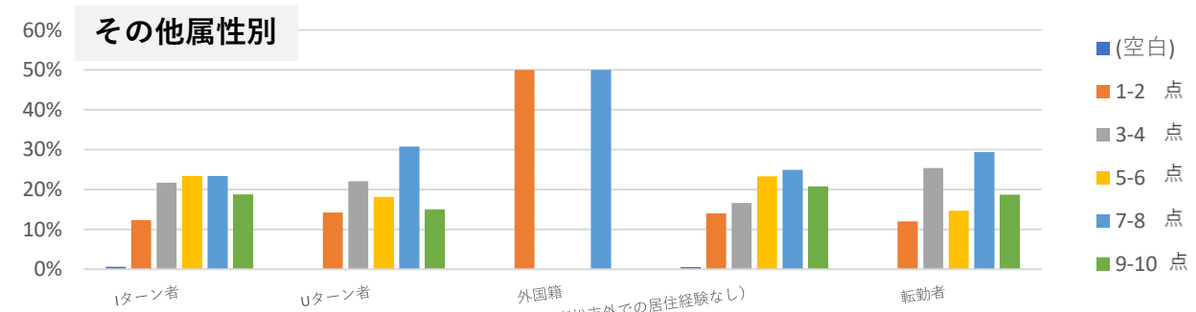
グラフから読み取れること

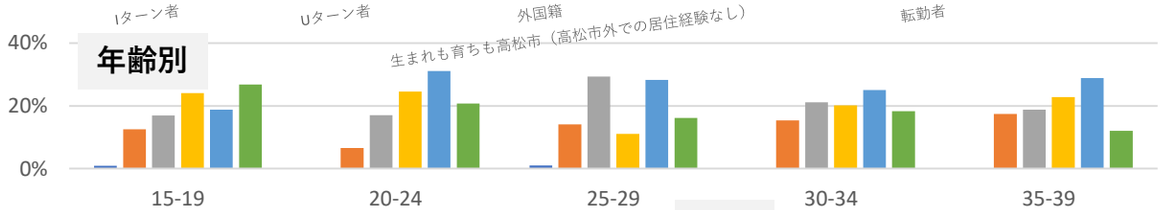
・３～４点の評価が一番多く、ついで５～６点となっている。１～２点、９～１０点は同じくらいいる。
・１０代の評価が高い。(７～１０点)
・独身、夫婦の子どもありなしで見ると、子どもがいない方が評価が高い。
・高松市出身者の方が、市外出身者よりも評価が低い割合が多い。

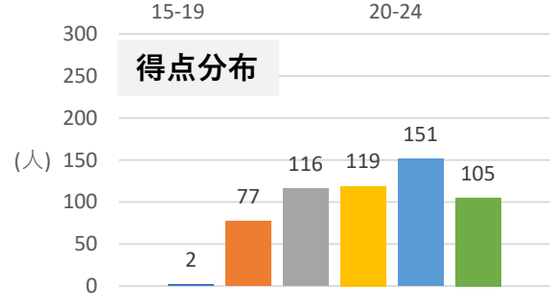
意見・感想

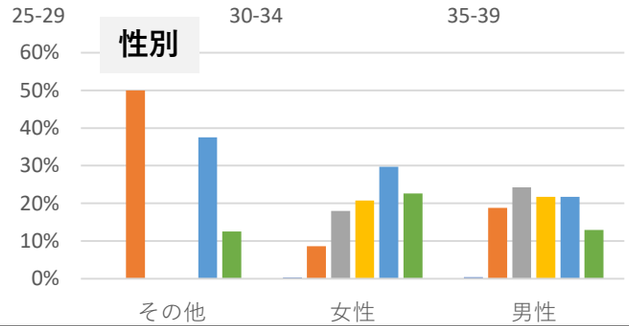
・出かけたくなる場所があまりないと思っている人が多く、高松市出身者の方が、市外の方よりもその傾向が顕著。「高松はなにもない」と刷り込まれているが影響されている可能性があるかも。
・子どもがいない世帯の方が、気軽に出かけられる環境にあり、フットワークが軽いといえる。子どもがいる家庭へアプローチするのは、明確な目的を提供することが重要なのではないか。

Q8 高松の男木島・女木島にいきたい度は？　平均点 5.83点









グラフから読み取れること

・行きたい度７～８点の層が一番多い。
・女性の行きたい度が高い方(７～１０点)が、５０％を超えていてる。
・２０代後半以降は、年代が上がるにつれて、行きたい度が低い割合が増えている。
・高松市、高松市外で行きたい度の高い人の割合はあまり変わらない。その他の属性についても、行きたい度の割合はあまり変わらない。

意見・感想

・行きたい度の平均が高いのは、瀬戸内国際芸術祭が影響していると思われる。
・男木島・女木島に限らず、屋島・塩江温泉についても女性の方が行きたい度は高く、非日常感や、芸術や景色等の楽しみを重要視していると思われる。観光や芸術関係でのアプローチは、女性に対して行うと有効なのではないか。
・自由記述では、女性では特に、子育てに対する要望が大きく、芸術×子育て、観光×子育て等、相乗効果を発揮できるコラボレーションの取組があればよいと感じた。
・市内外に居住していようが、UIターン・転勤者であろうが同じくらいの情報を得られることができているのではないか。瀬戸内国際芸術祭であれば、県下で広報が行われているので、島の魅力の情報を得やすいと思われる。
・自由記述で、大学生が男木島・女木島はいいところであるが、フェリー代が高く、頻繁には行きづらいという意見があった。学割等の費用面の補助があれば、若者の行きたい度はさらに増加が期待できる。

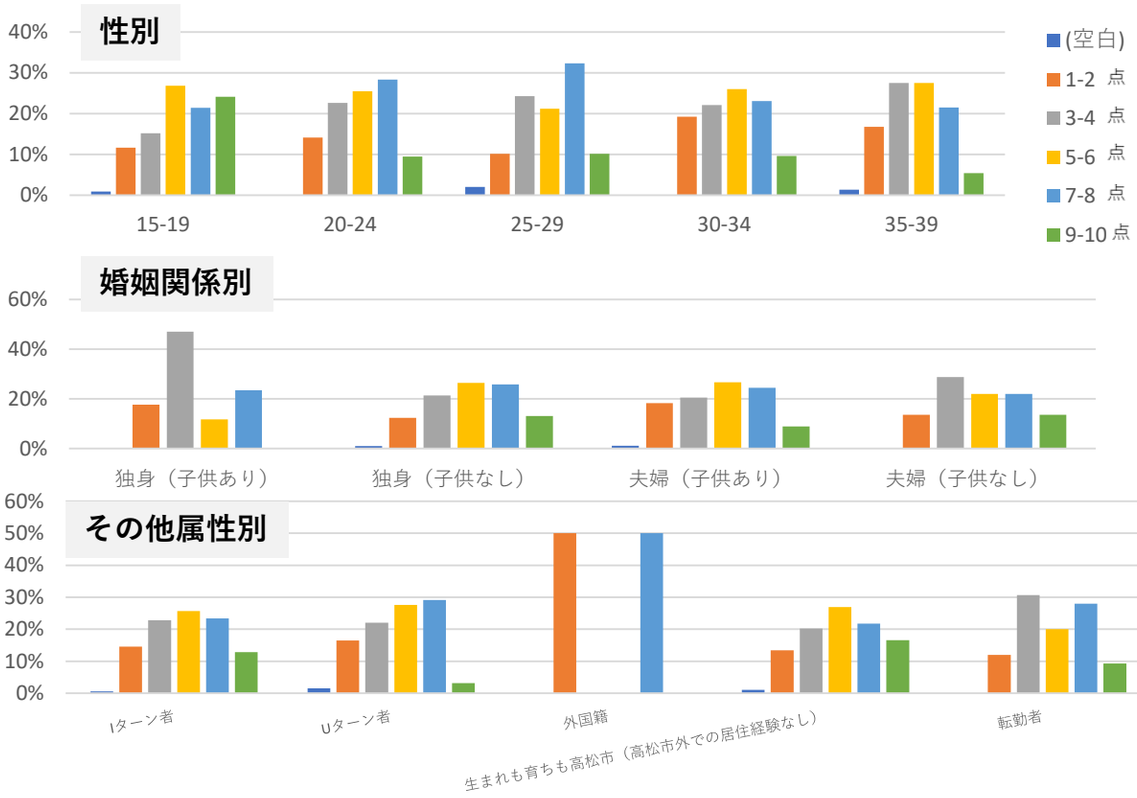
高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q9 高松の屋島に行きたい度は？

平均点 5.41点



グラフから読み取れること

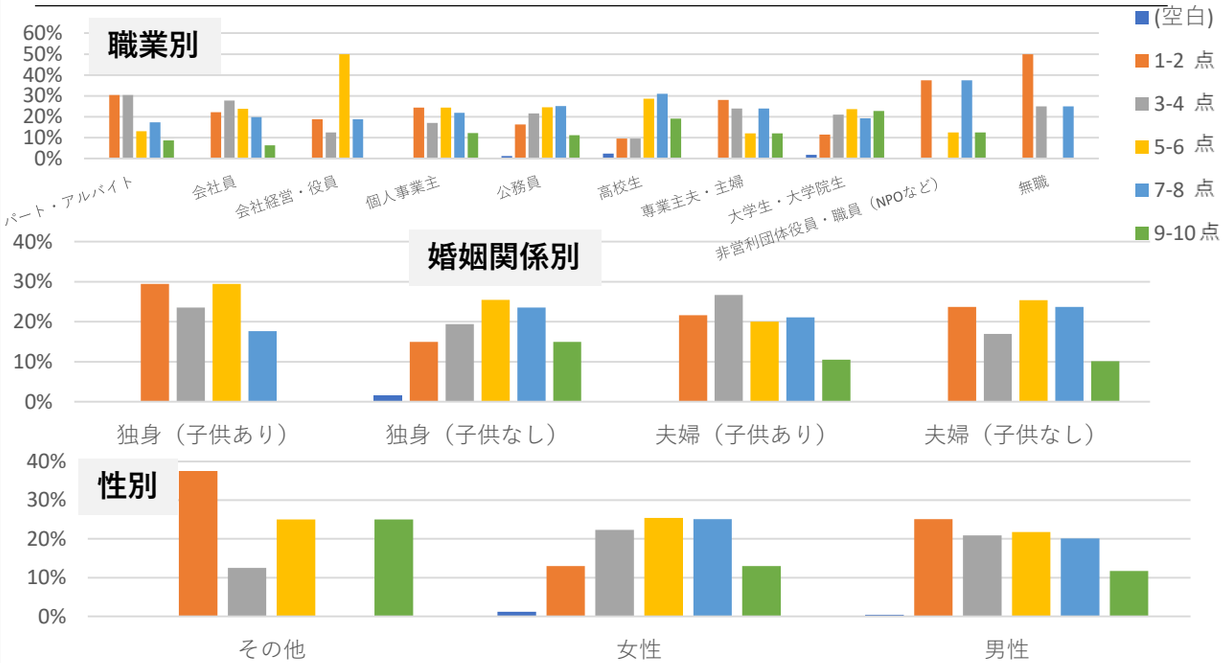
- 行きたい度の得点は、山型となっており、５～６点が一番多い。
- 女性の方が男性より行きたい度が高い人(７～１０点)が多い。
- １５～１９歳代の行きたい度が高い人が一番多い。
- 子どもがいる、いないで行きたい度の高さにあまり差がない。
- 行きたい度が低い人(１～２点)は、Iターン、Uターンが多い。逆に、行きたい度が特に高い人(９～１０点)は、生まれも育ちも高松の方が多い。

意見・感想

- 子どもがいる、いないで行きたい度があまり変わらないのは、屋島の山上まで車で移動できるため、子どもを連れていくことに負担が少ないからではないか。
- １０歳代の行きたい度が高いが、車の運転ができない車方以外の交通手段の充実を図ることで、実際に足を運んでもらう機会が増えると思う。
- 生まれも育ちも高松の人は、屋島の存在をより身近に感じているのではないか。屋島の魅力や情報は、ブランクがあるIターン、Uターンしてきた方には、魅力や情報が十分に届いていないのではないか。
- 自由記述では、拠点施設「やしまーる」の必要性に対する疑問の声が数件あり、市の屋島活性化の意図が市民に十分に伝わっていないのではないか。
- まず、屋島に対して魅力等を感じていない場合、目的がないと自ら行くことは中々ないので、行くきっかけを作ることが重要なのではないか。そのために、屋島山上でのイベントを実施し、また来たいと思えるように促すことが有効的ではないか。

Q１０ 高松の塩江温泉に行きたい度は？

平均点 5.27点



グラフから読み取れること

- ３０歳代男性の塩江温泉への関心が非常に低く、全体的に女性の方が関心が高い。
- 独身で子供がいない方の関心が高く、独身・夫婦共に子供がいる方の関心は低め。
- 学生（高校生・大学生）の関心が高い。

意見・感想

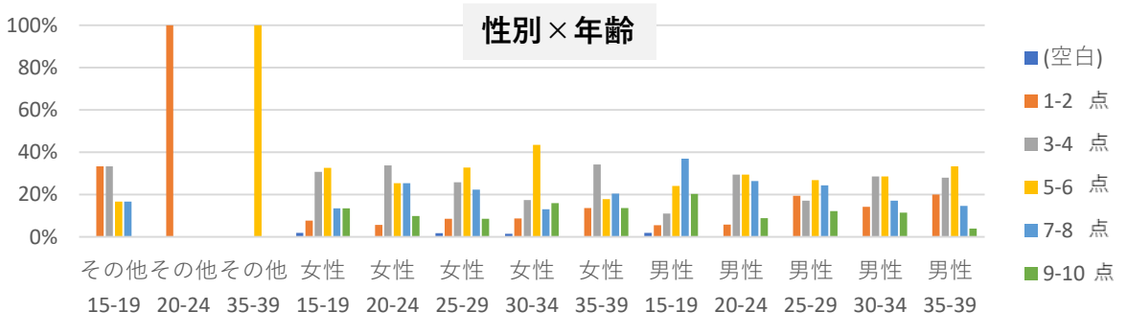
- SNS等で比較的発信力のある学生や女性の関心が高いため、まずはその層に実際に足を運んでもらい、たくさん発信してもらうことができれば、関心が低い方達にも塩江温泉に興味をもたせることができるのではないかと感じた。

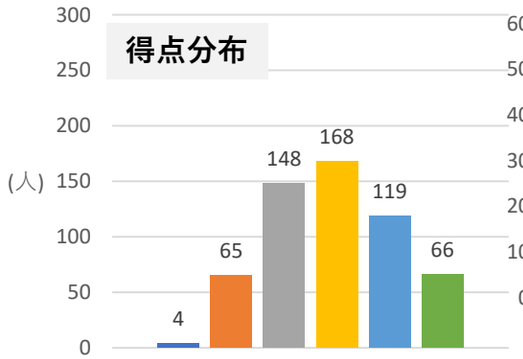
高松市通信簿 とは？

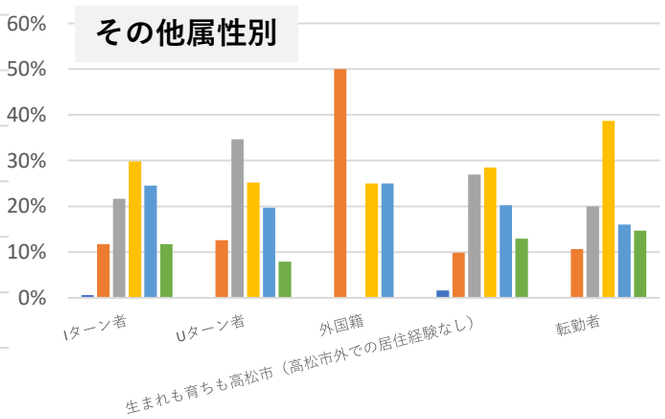
様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

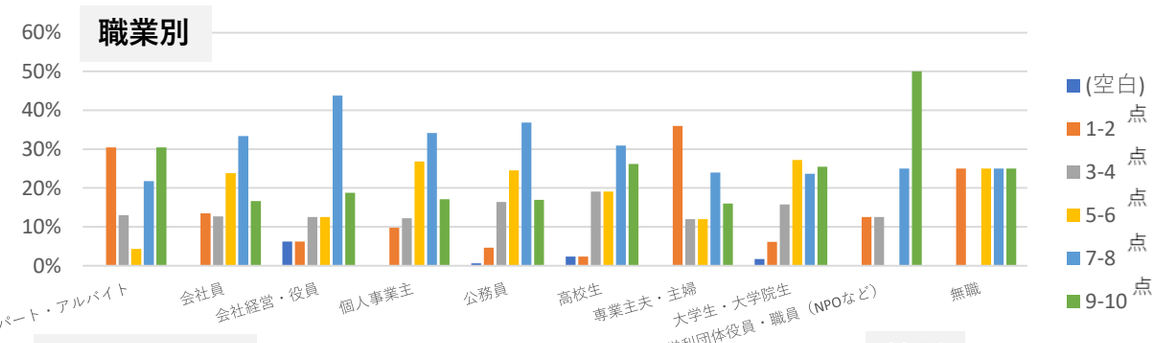
Ｑ１１ 高松は、いいデザインがたくさんある街だと思うか？　*平均点 5.37点*

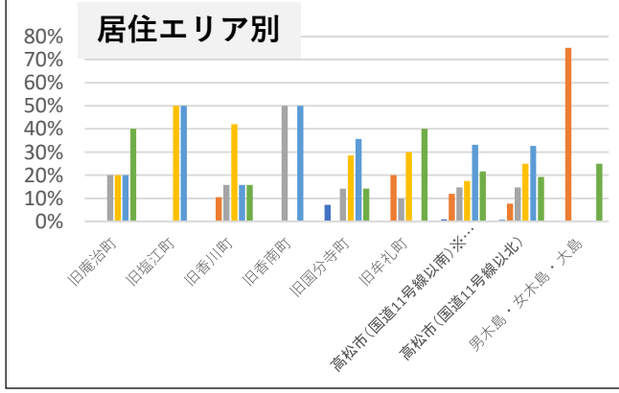


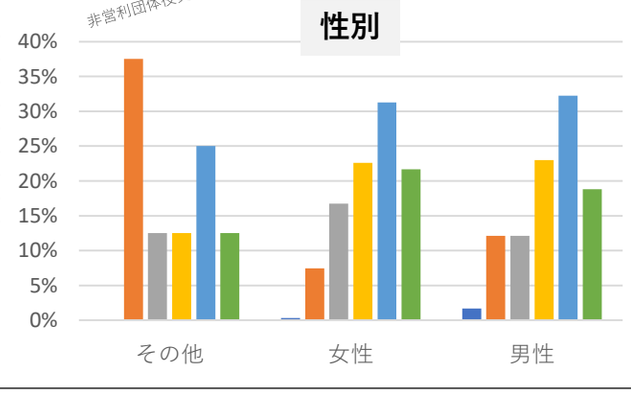




Ｑ１２ 高松は、芸術活動が盛んだと感じるか？　*平均点 6.3点*







グラフから読み取れること

- 評価は山型で、３～６点が一番多い。
- 市外に居住歴のある層の方が、評価が低い(１～２点)割合が高い。
- 評価が一番高いのは、１０歳代男性であり、３０歳代後半男性が一番低い。女性は、１０歳代が一番低いが、２０歳代以降は上昇している。

意見・感想

- いいデザインについて、よく分からないという方が多かったため、５～６点付近に回答が集中しているのではないか。
- ３０歳代後半は、仕事の責任が出てきて忙しい時期のため、デザインをゆっくりとみる余裕がないのかもしれない。
- 転勤者、ＵＩターン等、市外に居住経験のある方の方が、市外のデザインに触れる機会が多いので、評価が厳しいのではないか。
- 自由記述では、デザイン関係の学生が、学ぶために県外へ出てしまうことに対する残念な声や、それに対しての現代アートに特化した教育機関の設立や瀬戸芸に参加するアーティストと学生等の相互交流の要望があった。また、アーティストの移住促進のために、地域に根ざして活動する作家をサポートする体制を整えてほしいという声もあった。

グラフから読み取れること

- パート・アルバイト、専業主夫・主婦から評価が低い。
- その他の性別から評価が低い。
- 牟礼は評価が高く、瀬戸芸の主要な島である、男木島女木島からは評価が低い。

意見・感想

- 芸術活動が行き届いていない層として、高松市在住の外国籍の方（他国と比較して盛んではないという評価の可能性もある）パート・アルバイトの非正規雇用、専業主夫・主婦が考えられるので、こういったさまざまな「芸術」に触れる情報差や格差が無くなって欲しい。
- 回答に関して男女差はないものの、その他の性別は芸術活動に関して盛んだと感じていないことがわかる。ジェンダー関係なく芸術活動が身近なものであって欲しい。
- 瀬戸芸の主要な島、男木島・女木島の回答がとても驚いた。盛んでない理由としては、中からの動きがないのが要因ではないかと思う。また、「高松市内にも現代アートの施設(若い方が来るような)があると観光の方がもっとくる。直島や豊島だけで、残念。」という声もあり、がっかりするということが極力ないようにしたい。
- 「瀬戸芸期間だけでなく、年中、市内や隣県のアート展示情報を余すことなく、県立・市立・私立を平等に横並びで一覧できるサイトやアプリを用意してほしい。」という回答があり、改善できるのではないかと思う。
- イベントをどんどん開催してほしいとあるが、主催者負担のものも多くあり、現状企画者が苦しんでいる。
- 「街中と郊外で設備やイベントに温度差というか…量や充実度合いに差がありすぎると思います。」という意見があり、設備に関しても再度調査等必要だと感じた。
- 「海やアート、程よい自然がせっかくあるのにあまり活かせていないなと感じています。」という意見があり、活かせる場所があるが使用に関しての問題などが発生するように思った。

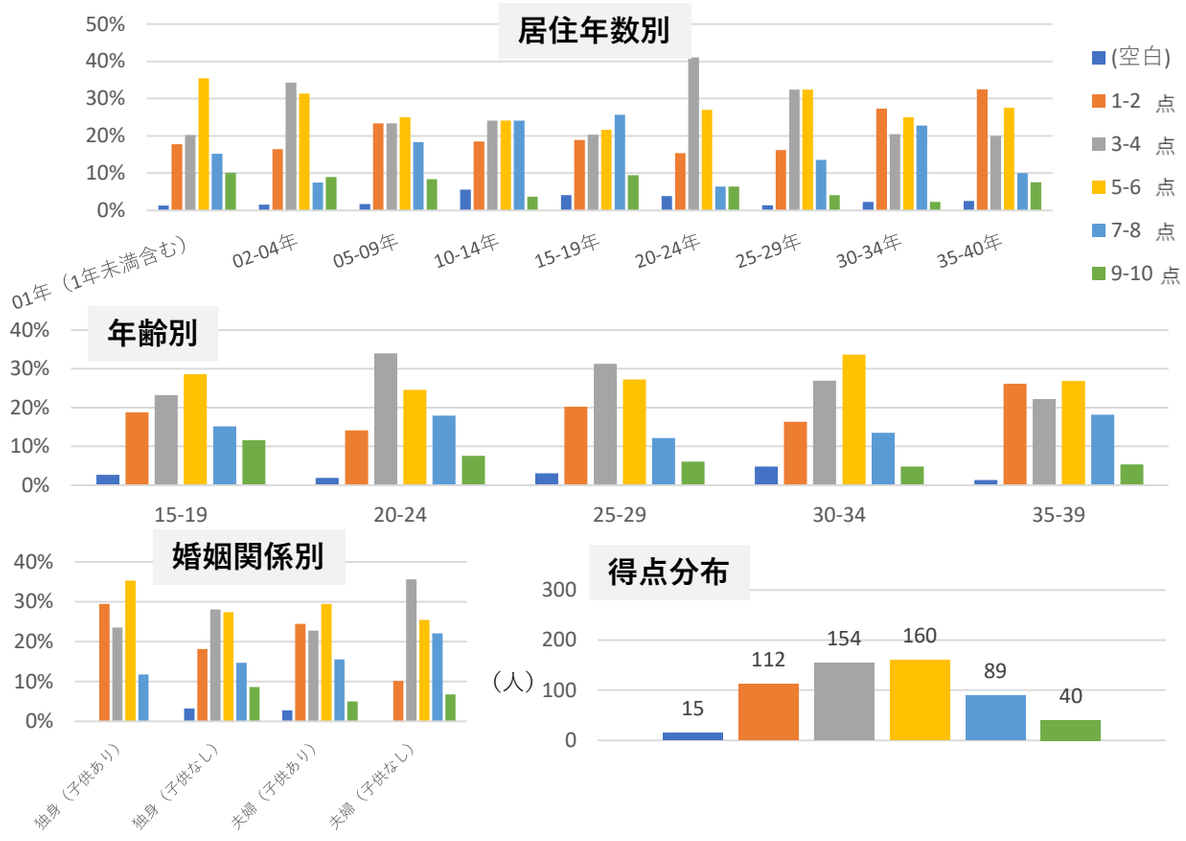
高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q１３ 高松は、アーティスト活動を仕事として生活したいと思える街か？

平均点 4.7点



グラフから読み取れること

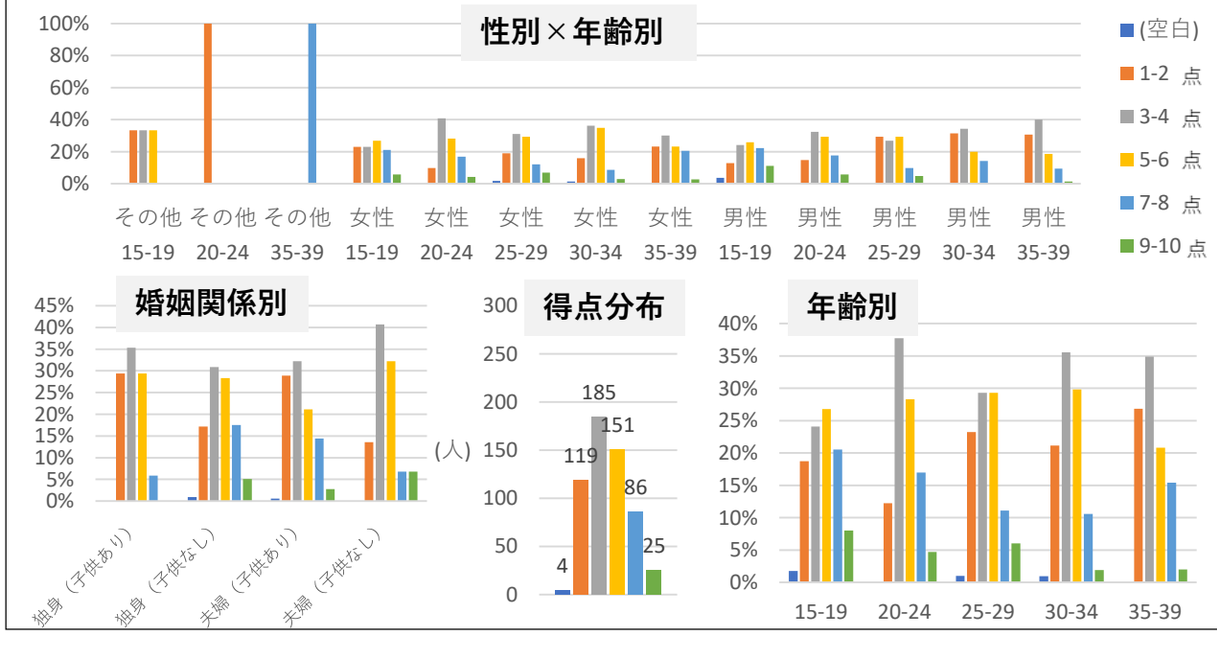
- 高松市内の人の方が低く回答している。高松市外は平均点。１～５点の回答が３５１人で半数を超える。
- 年齢３５～３９歳の最も多い評価が１で低い。
- 移住エリアが男木島女木島の最も多い評価が１で低い。
- 独身で子供なしの最も多い評価が１で低い。
- パートアルバイト・専業主夫・主婦・個人事業主の最も多い評価が１で低い。
- 移住歴が長くなるほど評価が悪くなる。

意見・感想

- ３５～４０歳はアーティスト活動を仕事としてできない街という印象を持っており、若手支援に目を向けがちだが、この層にも支援が必要だと思う。
- 地域に根ざして活動する作家をサポートする体制を整えたり、作家や作家志望の移住が増えるように、現代アートに特化した教育機関を設立してほしい。若手芸術家たちを支援するための取り組みを強化してほしい。という意見を聞き、若手芸術家支援は作品が作れる環境や支援であり、時間やアイデアを奪うものではないと思った。
- 「保守的」という意見もあり、新しい試みが通りにくい土地柄であるように感じる。また「商店街が空き店舗ばかりで、もっと活用できると思う。」活用できる人材が少ないようにも思うが、新しい試みがしにくいという点で似ている。
- 「障害者がエンタメを楽しめる機会が少ない。瀬戸芸には、障害者への配慮がないので、参加しにくいのではないかと思う。県内外から、瀬戸芸に手話ガイドがないかと問い合わせされる。」などの声は改善していくべきだと思った。
- 介護や子育て中の才能のある芸術家に対しても、現状把握や支援等が必要だと思う自由記述があった。

Q１４ 高松は、日常で伝統工芸を感じる街か？

平均点 4.43点



グラフから読み取れること

- 全体として、感じていない割合（１～４点）が半数以上であり、感じている割合（７～１０点）は２割に満たなかった。
- 年代別では、１５～１９歳は、感じている割合が他年代に比べて多く、年代が上がるにつれて、感じていない層が増加している。
- 性別では、女性の方が感じている割合が多い。
- 性別×年代では、女性は、３５歳代になると、感じている割合が増える（１５～１９歳と同程度に戻る）が、男性は、年代が上がるほどに感じていない割合が増加している。
- 地域別では、サンプル数が少ないものの、旧牟礼町はある程度感じている割合（７～８点）が多い。
- 子どもあり夫婦より、子どもなし夫婦の方が、特に感じていない割合（１～２点）が少ない。

意見・感想

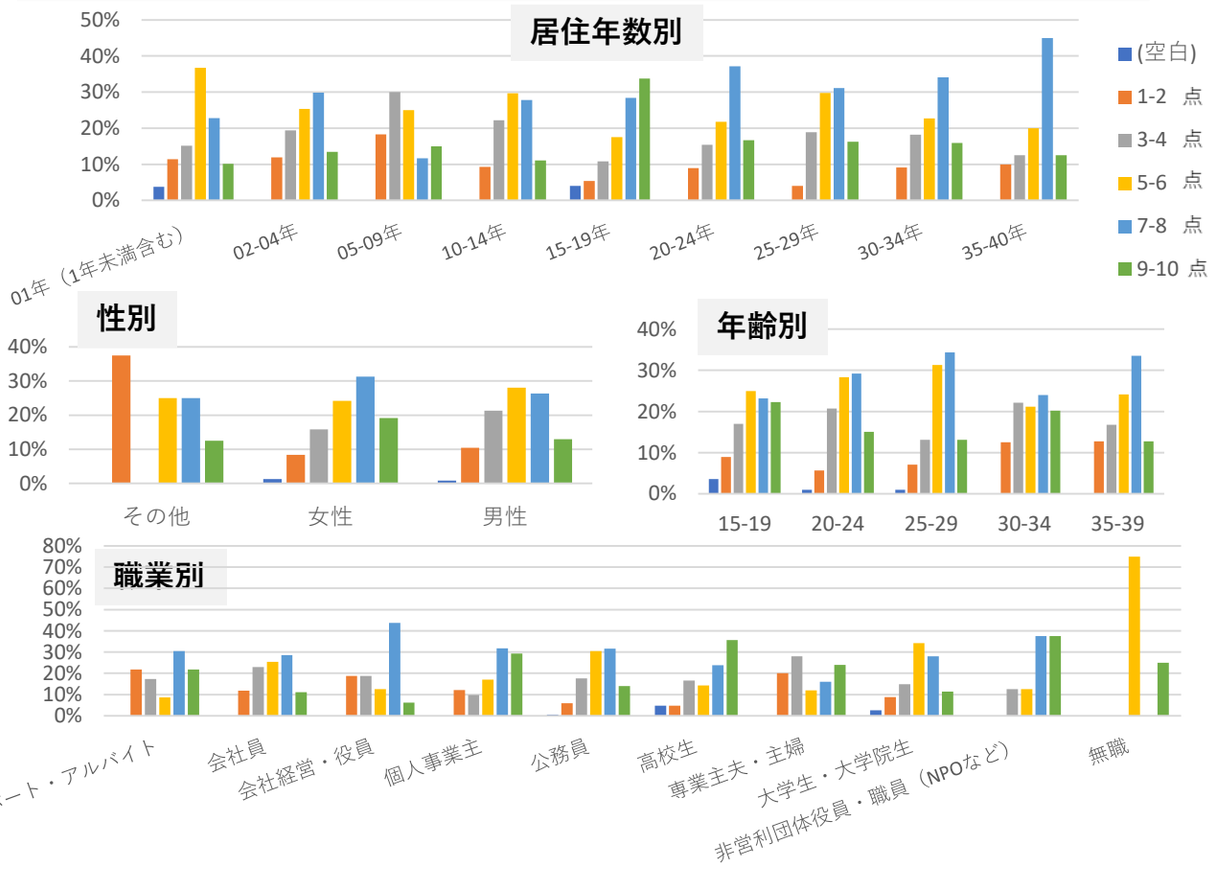
- 半数以上が伝統工芸をあまり感じておらず、日常の生活から伝統工芸が離れている事が分かる。
- 特に、社会人になるにつれ、仕事や家庭といった日常生活で手一杯になり、生活に密接しなくなった伝統工芸から、さらに遠ざかっていくのではないか。
- 男性に比べ、女性の方が、文化面への興味・趣味があり、文化の側面から伝統工芸を感じることが多くなるのではないか。
- 地場産業として密接している地域では、伝統工芸への意識もあるのではないか。
- 伝統工芸を使う文化とともに興味関心のある若い層、学生に対して周知啓発を図り、将来に継続して使用してもらえるようにすれば良いのではないか。

高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q１５ 高松での生活に、家族、友達の助け合いを感じるか？　平均点 6.02点



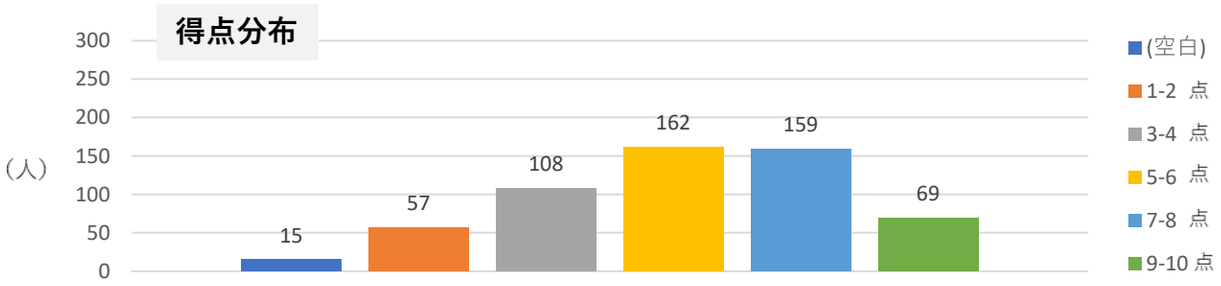
グラフから読み取れること

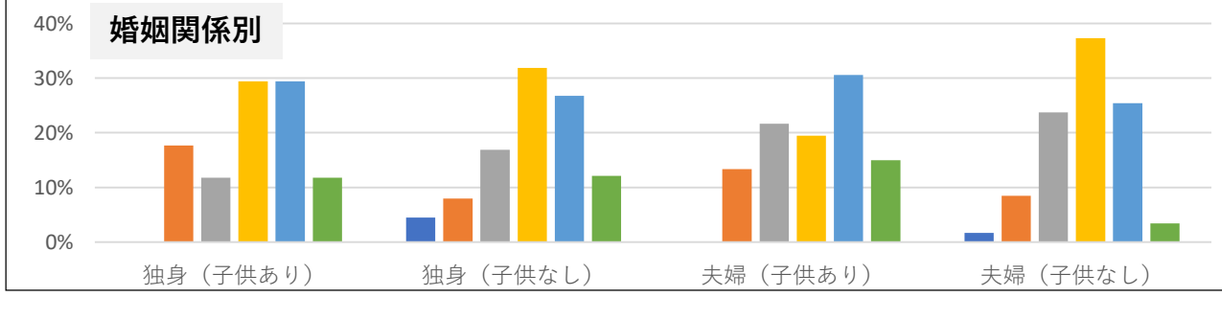
・全体的に、７～８点の層が全体の約３割と一番多い。
・９～１０点の層が、１～２点の層を上回っている。
・性別では、女性は７～８点、男性は５～６点の層が約３割と一番多くなっている。
・１５～１９歳が一番、家族や友達からの助け合いを感じている。
・子どもがいる家庭の方が、なしと比べ９～１０点の割合が大きい一方、低評価も多く、評価が割れている。
・職業では、７～８点の層が一番多いが、「主夫・主婦」は約半数が低評価となっている。

意見・感想

・「無難」「物足りない」「目玉に欠ける」「子育て環境に不満」等、居住歴15年未満だと低評価が多くなりがち？１５年越え辺りから比較的高評価にボリュームゾーンが移行しており、Iターン者、転勤者も長く住みたいと思えるよう、１５年スパンに絞った助け合える環境（子育て支援、雇用環境、コミュニティづくり等）の充実は必要と感じた。
・高松市に長く住んでいる人は助け合いを感じやすい。
・１５～１９歳が一番、家族や友達からの助け合いを感じているのは、家族や友達と接点の多い、高校生は右肩上がりに評価が高くなっていると思われる。
・「主夫・主婦」層が９～１０点の割合が多い一方、低評価も多く、周囲のサポートが少ない人たちも多くいるように思う。既婚者の中にもひきこもり状態の方が一定数いるが、見過ごされている現状にある。（一般社団法人ひきこもりUX会議「ひきこもり・生きづらさについての実態調査2019」にて「既婚女性」が全体の２０.１%）
・自由記述「仕事に疲れた時や心が折れそうなときに友達に助けを求めやすい。夜でも相談できるカフェやボーッとできる海辺など人に会える“場所”がある」の意見あり。
・通信簿を周知する中で「評価されること」に苦しんできた層のマイナスな反応が見られた。

Q１６ 高松は、子育て世代が暮らしやすい街か？　平均点 5.76点





グラフから読み取れること

・可もなく不可もなくどちらともいえないと思っている人の割合が高い。
・全く満足していない１と、満足している１０が一定数いる。

意見・感想

・子育てに携わっていない人も答えたので、わからない人も多かったのではないか。
・１と１０が、一定数いるのは、情報が届いているか届いていないかの差ではないか。
・自由記述では、ほとんどが要望で、満足している部分の意見はとても少なかった。
・今の現状で、大きな不足はないが、不十分さを感じている子育て世帯は多い。
・高松市の政策で、子育てに関するものもあるにはあると思うが、家庭やこどもに寄り添っている、取組みをしているという感じが市民にあまり届いていない印象。
・「明石市」という固有名詞が自由記述の中にも出てきたが、そのくらい子育てに力を入れているということが、子どものいない人にも伝わらないと、これから子どもを産みたいという気持ちにならないかもしれない。

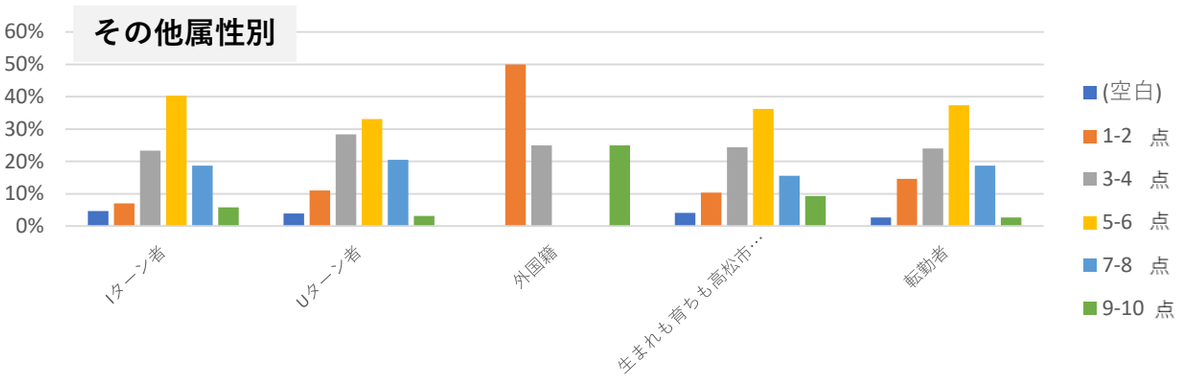
高松市通信簿 とは？

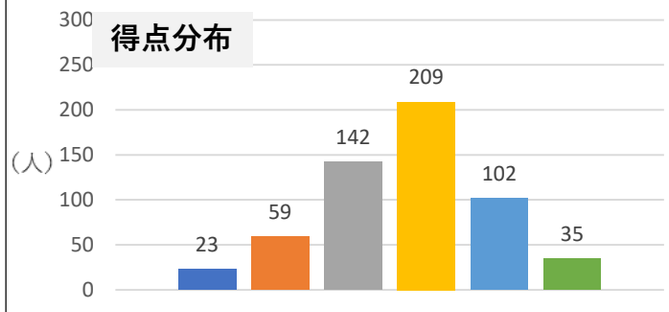
様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

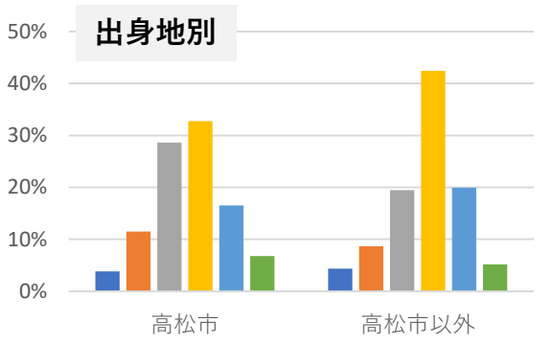
Takamatsu Youth Voice

Q１７ 高松は、外国人が暮らしやすい街か？

平均点 5.14点







グラフから読み取れること

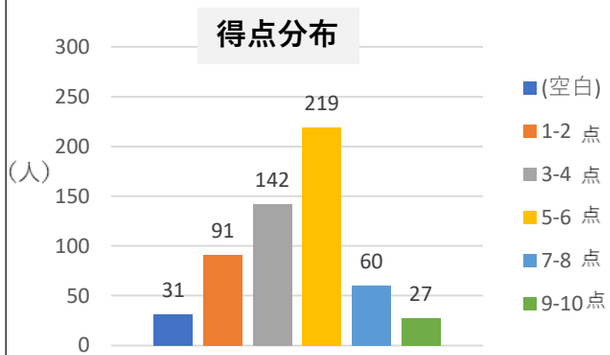
- 外国籍の方が４名アンケートに参加している。
- 日本人の解答も様々であるが、５～６点が一番多い。

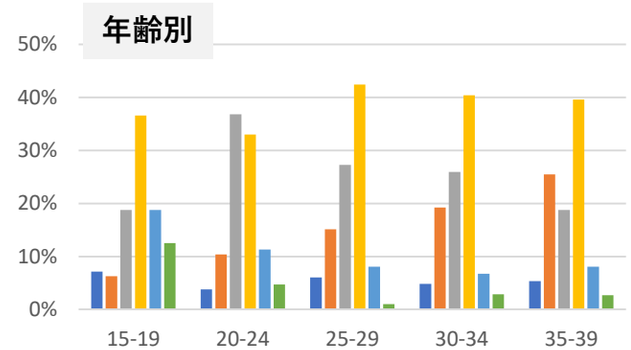
意見・感想

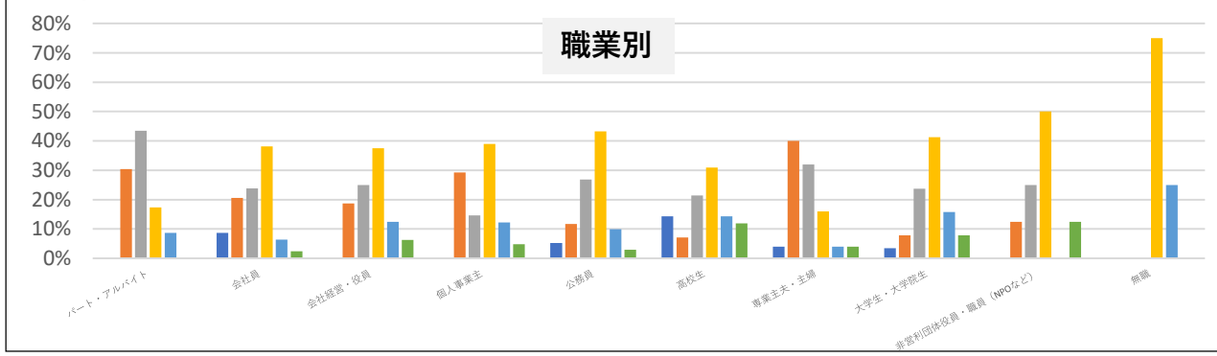
- 当事者ではない質問に対しては、５～６点が多いように見受けられる。
- どうしてそう思うのかを聞けたら、面白いかもしれない。

Q１８ 高松は、LGBTQが暮らしやすい街か？

平均点 4.61点







グラフから読み取れること

- 全体として、５～６点とした人数が、他設問に比べ多い。
- 下記以外で属性による大きな差は特にない。
- １５～１９歳は、５～６点への偏りは無く、各点数へばらけている。
- 「パート・アルバイト」、「専業主夫・主婦」は、１～２点、３～４点の割合が大きい。

意見・感想

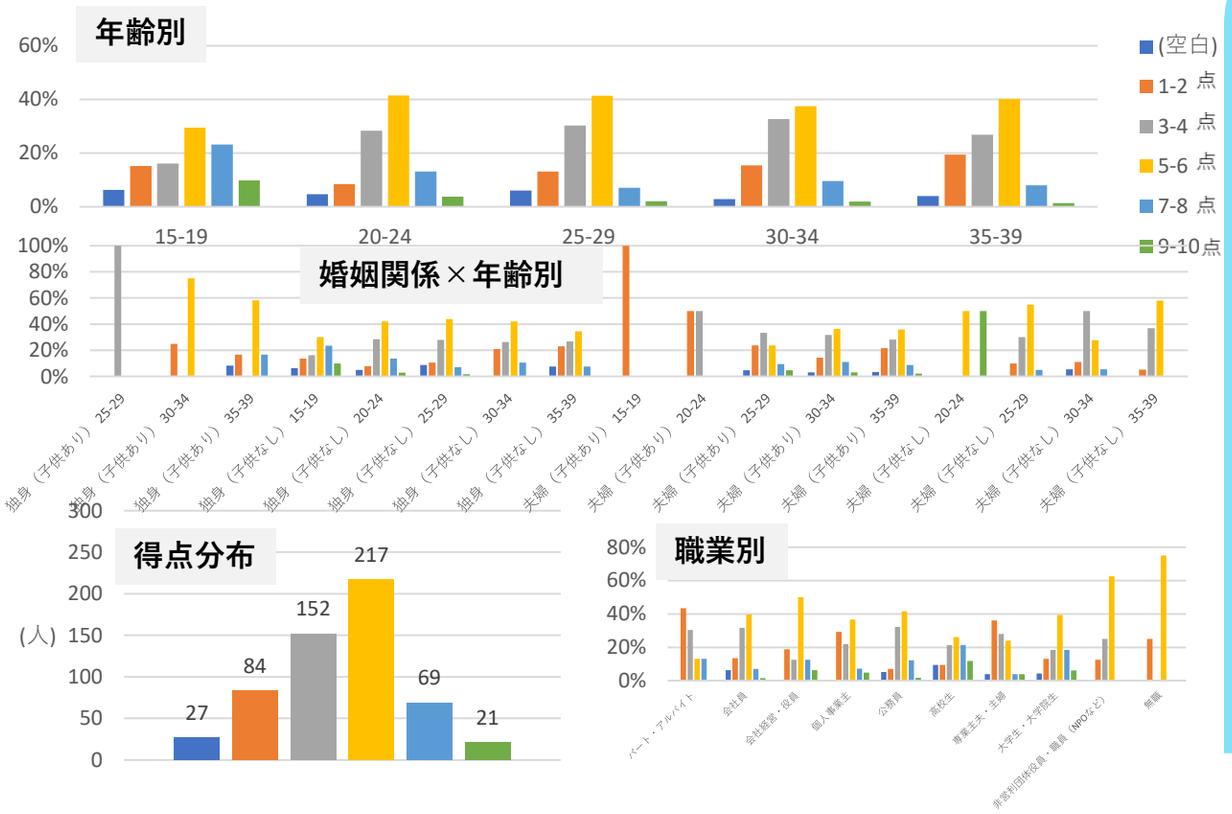
- 当事者ではなく、判断がつかなかったため、５～６点と真ん中の点数の割合が増えたのではないかと考える。
- １５～１９歳は、点数は全体にばらけており、それぞれの身近な経験に素直に答えたものであろうかと思う。
- 「パート・アルバイト」、「専業主夫・主婦」の動きについては不明。

高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Ｑ１９　高松は、障がいを持っている人が暮らしやすい街か？　*平均点 4.62 点*



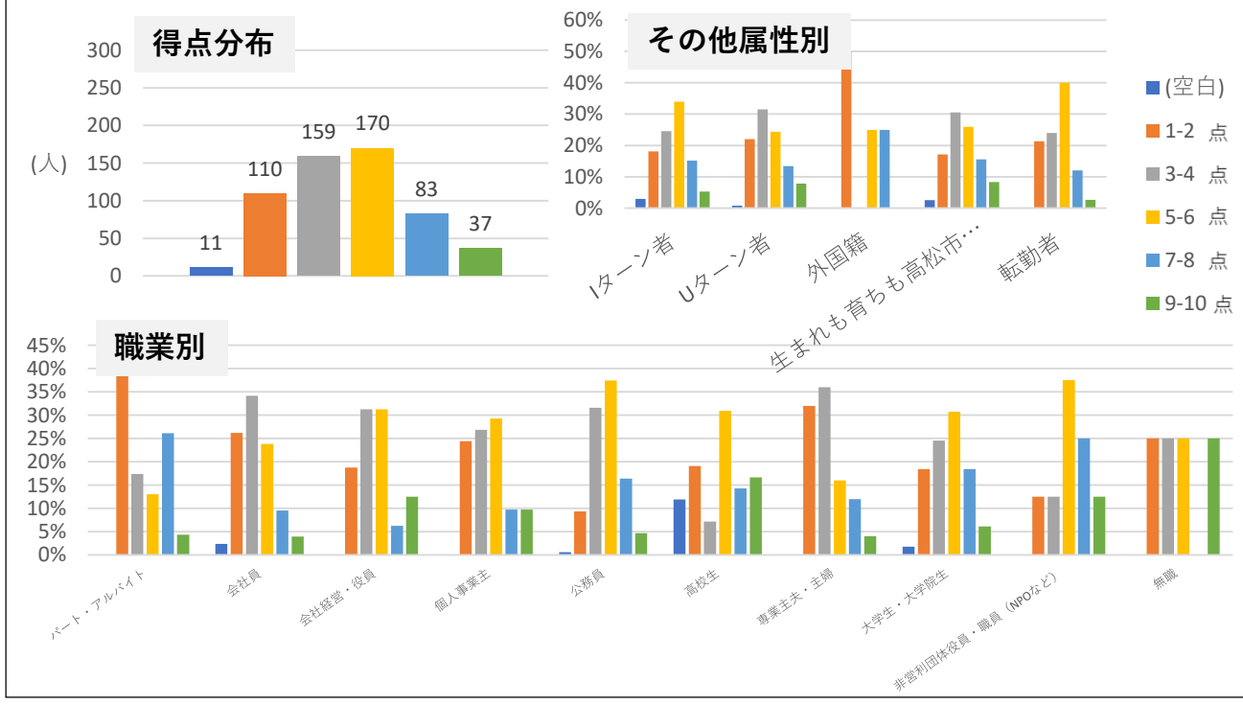
グラフから読み取れること

・全体として、５～６点とした人数が、他設問に比べ、LGBTQと同様に高かった。
・年代別では、１５～１９歳は、７～８点のやや暮らしやすいと考える割合が、他の年代層よりは多い。２０歳以上は３～６点の割合が大きい。
・職業別では、１～２点を「パートアルバイト」は４３%、「専業主夫・主婦」が、３６%のところ、「会社員」は１３%、「公務員」は最低で７%であった。一方、３～４点をつけた割合は「公務員」がもっとも多かった。

意見・感想

・障がいの当事者などではなく、判断がつかなかったため、5～6点と真ん中の点数の割合が増えたのではないか。
・１５～１９歳は、点数は全体にばらけており、それぞれの身近な経験に素直に答えたものであろうかと思う。
・職業別の差においては、「会社員」、「公務員」については、社内や職務での取組みがあり、１～２点の最低点ではないと思った人が多かったのではいか。「公務員」においては、３～４点の割合が他の職業に比べて多く、障がい者への対応の遅れを実感しているのではないか。
・「パート・アルバイト」、「専業主夫・主婦」は、それぞれの業種の中で１～２点の割合が最も大きいが、障がいの当事者や身近に障がいのある方がいるからその職業であり、結果として１～２点の割合が増えた可能性も考えられるか。

Ｑ２０ 高松は、働きたいと思う会社がある街か？　*平均点 4.64 点*



グラフから読み取れること

・全体的に３～６点に集中している。
・職業別でみると、「パート・アルバイト」及び「専業主夫・主婦」に低い点数を付けた割合が高い傾向にある。９～１０点を付けた割合が一番高かったのは「高校生」（無職を除いた場合）。
・「会社員」は３～４点を付けた割合が一番高い。
・性別や年齢では、突出した差は見られない。
・年齢別でみると、９～１０点を付けた割合が一番高いのは１５～１９歳。（約１割）
・Uターン・Iターン者と市外での居住歴なしを比較しても、突出した差はない。

意見・感想

・平均は約4.6点。可もなく不可もない結果である。
・職業別にみると、「パート・アルバイト」及び「専業主夫・主婦」に低評価が多く、高校生に高評価が多い傾向にある。これから社会に出ていく若年層に比較的高評価傾向が見られたのは、希望が持てる結果ではないか。
・現役の会社員は３～４点の割合が高く、やや不満を抱えているのかもしれない。
・自由記述欄で、高松市の会社、仕事に関して言及した記述は数件しか見られなかった。しかし、若者のUターンに関係して、雇用の創出を求める記述があり、魅力的な会社の存在が１つの人口流出抑止要素となる可能性があるのではないか。

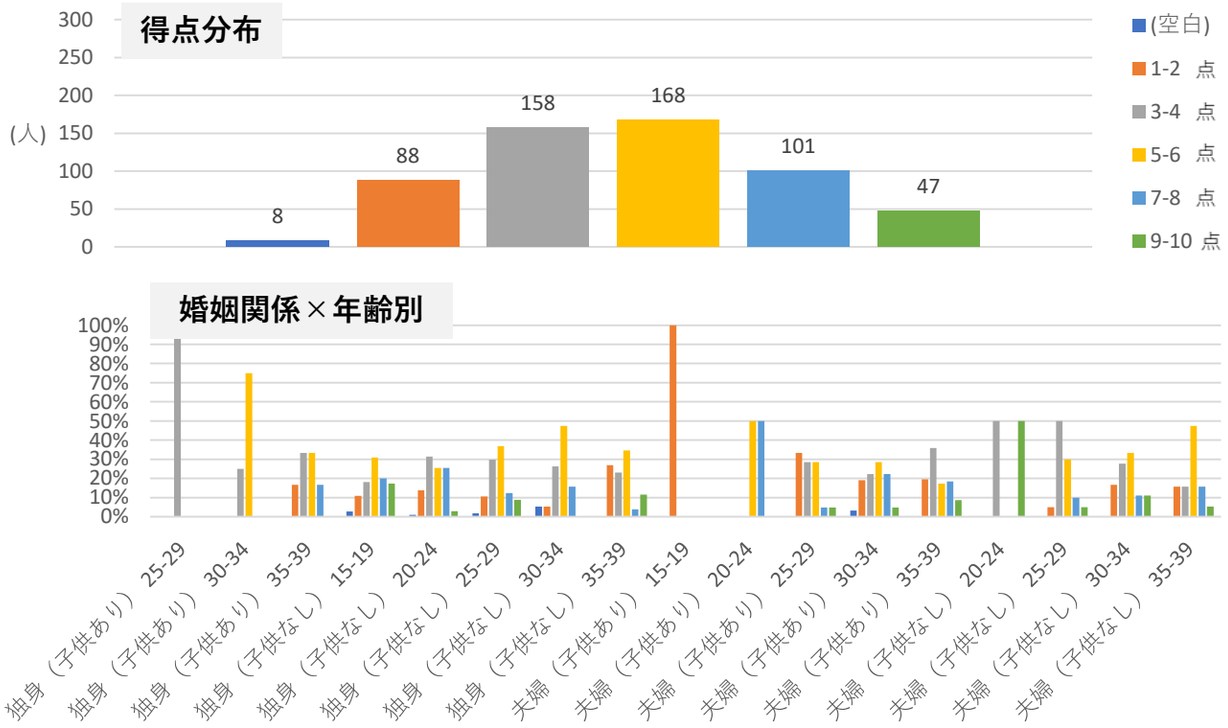
高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q２１ 高松は、参加したい地域のイベント・コミュニティ活動がある街か？

平均点 ***4.98*** *点*



グラフから読み取れること

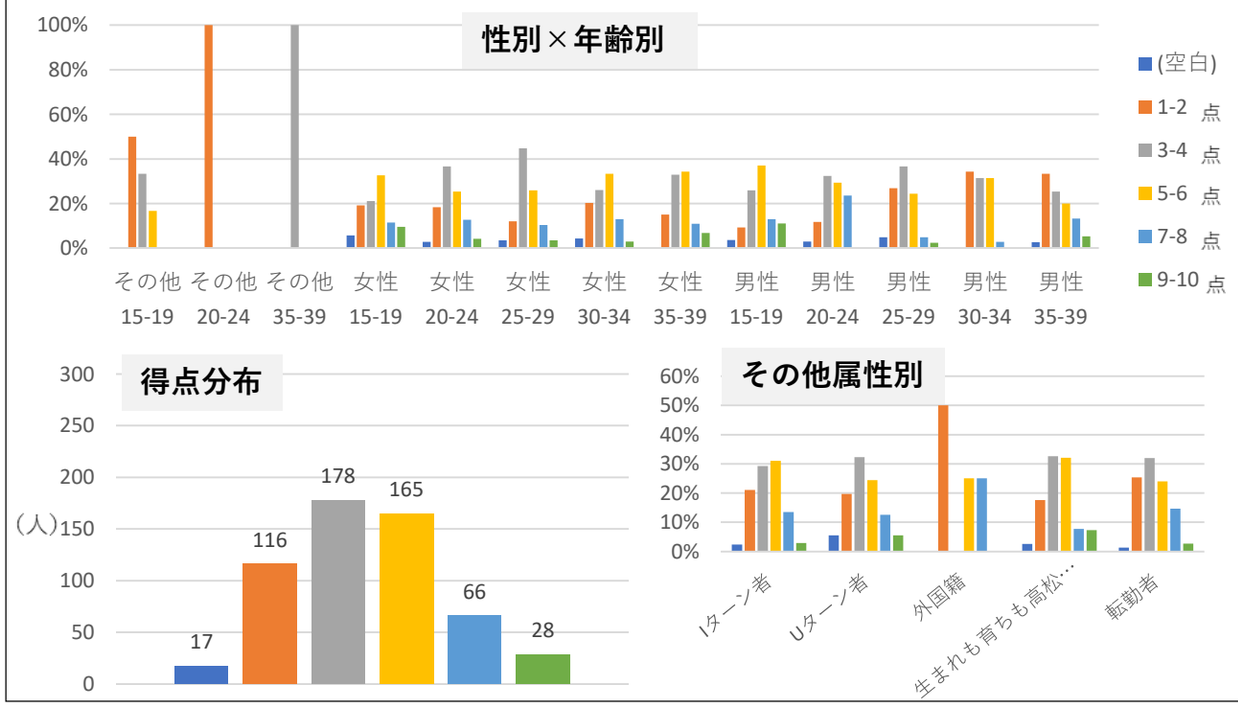
・結婚後、子どもが生まれると地域活動にやや興味を持つ傾向がある。
・点数が中央部分に集まっている。

意見・感想

・そもそも地域のイベント・コミュニティに興味がない、知らない可能性がある。
・地域活動に積極的に参加しているとは言えない。
・自治会等の地域自治に関与していない可能性が高い。
・自治会等の地域自治の再編が必要だと思う。
・地域活動等の情報を発信するプラットフォームがあってもいいかもしれない。

Q２２ 高松は、農業に従事したいと思える街か？

平均点 ***4.42*** *点*



グラフから読み取れること

・点数は、７～８点、９～１０点の合計割合が約１６．５%と２０%を下回っており、農業をしたい人の割合が低い。
・年代別にみると、１５～１９歳、３５～３９歳の最低及び最高層の７～８点、９～１０点の割合が比較的高い。
・Iターン、Uターン、転勤者の７～８点、９～１０点の割合は低い。

意見・感想

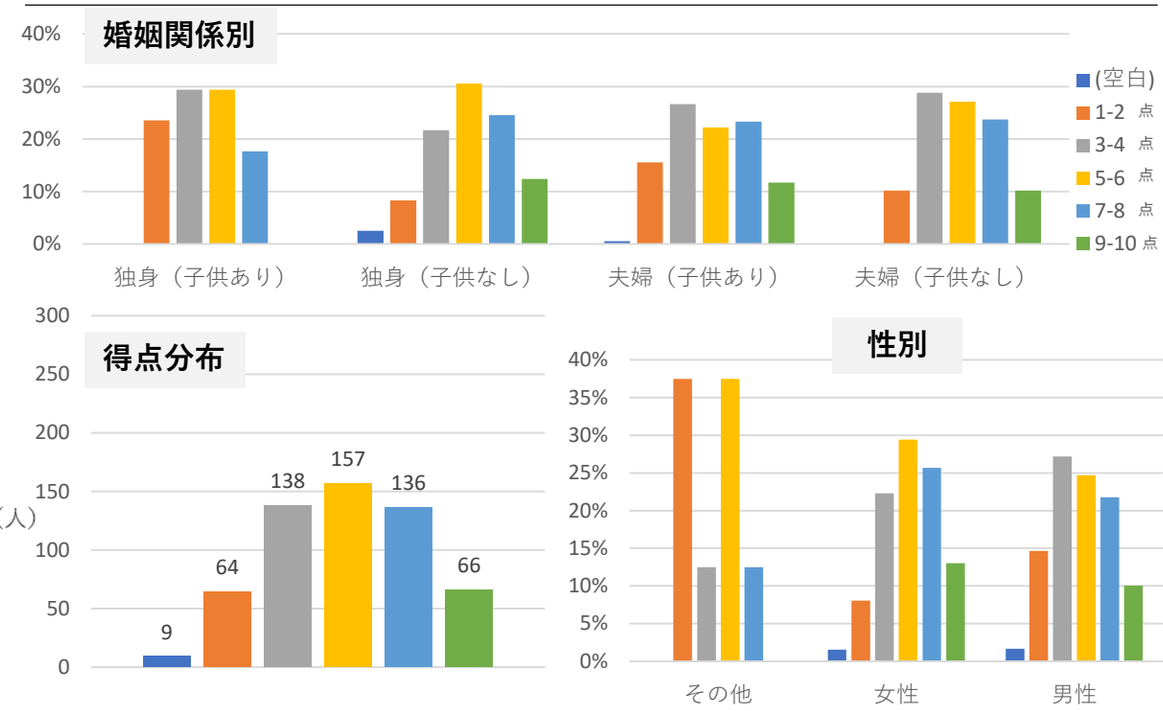
・U40世代への農業の認知度、魅力や関心が低いことが認識でき、客観的に「仕事」としては、あまり従事したい職種ではないと捉えられていると感じた。
・一方で、年齢別観点から分析すると、U40世代の中核を担う方は現状に満足している又は精一杯で、農業を始め他の職種への従事は考えていないのではないか。
・市内、県内在住者が中心のアンケートではあるが、Iターン、Uターン及び転勤者の帰農スタイルや移住就農に興味がある者は、一般的には少ないと感じた。

高松市通信簿 とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Q２３ 高松は、地産地消を感じられる街か？

平均点 5.5点



グラフから読み取れること

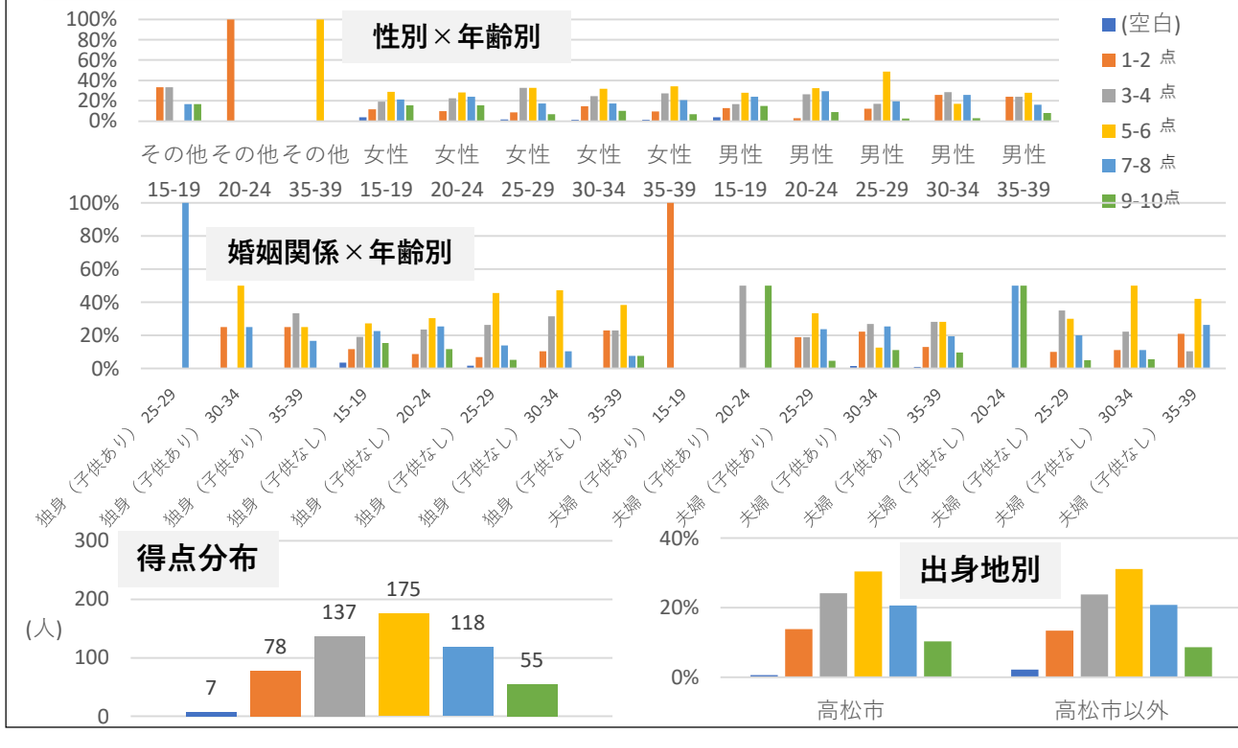
- 全体で見ると、[平均値：5.504]、[偏差値：2.42]と、評価は中くらいで、平均値を中心に割とばらけている。
- 年代別で見ると、年齢層が低いほど高評価を、高いほど低評価をつける傾向がある。
- 男性の方が低評価、女性の方が高評価よりである。

意見・感想

- ほぼ独身世帯となる20歳前後は評価が高く、年齢を重ねるほど評価が低い傾向があり、食事や健康に気を遣ってくると、高松市の現状に物足りなさを感じるようになるのはないかと思う。
- ３０歳前後の「夫婦(子供なし)」が最低評価をつける傾向があり、小さい子供のいる家庭では、より一層地産地消への意識や需要が高くなるのではないかと思う。
- 男性が最低評価をつけやすいこと、年齢層が高いと最高評価・最低評価の割合が高くなることは、物事の良し悪しをはっきり主張することに起因する可能性があり、設問に対しての評価と関係しないかもしれない。

Q２４ 高松は、食文化の多様性を感じる街か？

平均点 5.24点



グラフから読み取れること

- 全体でみると山型で５～６点が一番多い。
- 男性よりの女性の方が、評価が高い(７～１０点)割合が多い。
- １０～２０歳代前半が一番評価が高い割合が多い。
- 夫婦(子どもなし)の低評価(１～２点)割合が一番大きいが、高評価も一定数はいる。
- 生まれも育ちも高松の人の評価が高い割合が多い。

意見・感想

- 5～6点が多く、大部分は、食文化については可もなく不可もなくと感じているようだ。尖ったところがない高松市の特色がよく表れている。
- 10～20代前半の学生は、学校の食堂で、○○フェア等のバラエティに富んだ食事に出会えるため多様性を感じる機会も多いのではないか。多様性に対するハードルが低いのかもしれない。
- 自由記述に、給食を充実してほしいという意見があったが、今以上に地元産の食材や、多文化を取り入れる内容にすることで、小さいころから食文化の多様性を感じられるのではないか。（Q23と連動）
- 「夫婦(子どもなし)」の低評価割合が高いのは、子連れでの外食に対するハードルが高かったり、多様性のある食事（例えば香辛料がきいたもの等）をとる機会が少ないからではないか。
- 自由記述には、有名チェーン店を始め、もっと多種多様な飲食店が存続できるようにしてほしいという声があり、保守的な市民性なのか、特色のありすぎるものは、受け入れられづらいと思われる。

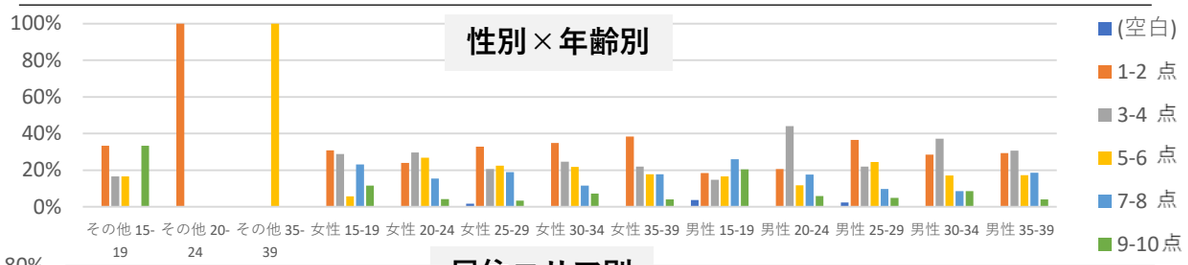
高松市通信簿 とは？

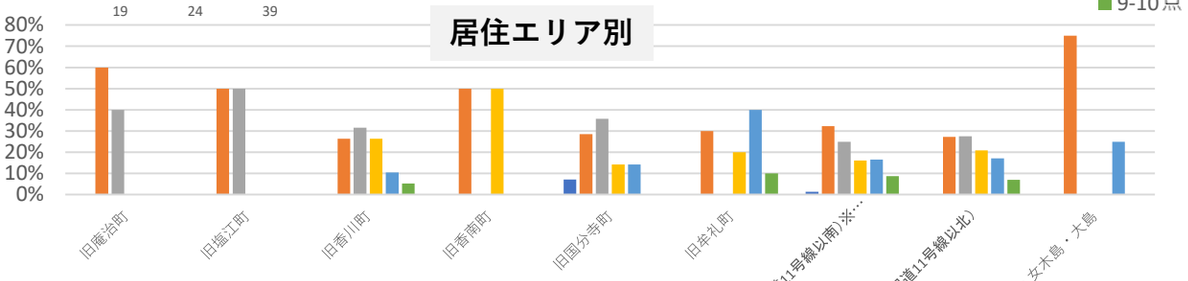
様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

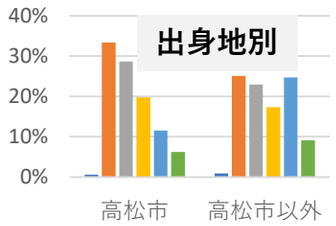
Takamatsu Youth Voice

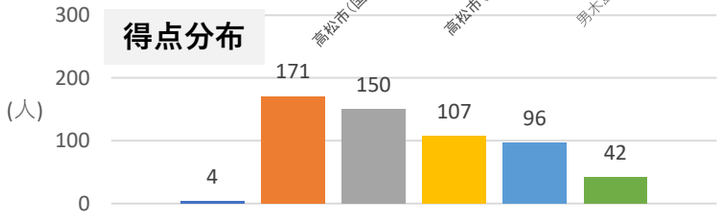
Q25 高松は、バスや電車など公共交通が充実していると感じるか？

平均点 **4.31点**



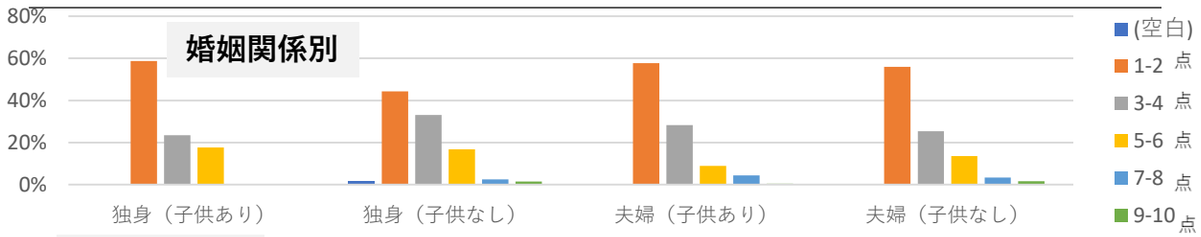


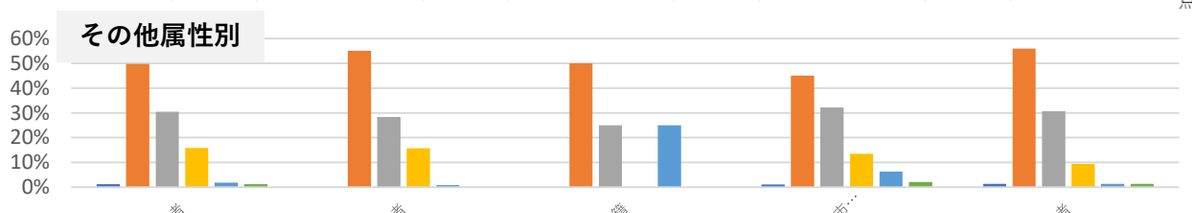


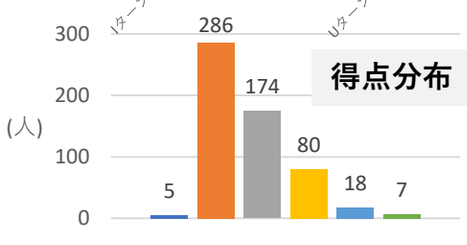


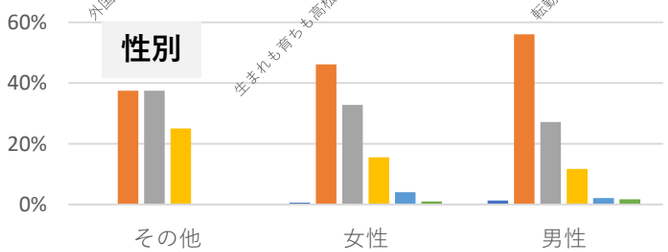
Q26：高松は、優しい運転がある街だと思うか？

平均点 **2.84点**









グラフから読み取れること

- 全体的に高松市の公共交通を便利だと感じていない人の割合が高い。
- 特に２０歳代以上は男女ともに交通に対する不便さを感じている。
- 居住地、居住歴による相関関係は低いように思える。
- 男性よりも女性の方が、公共交通への満足度は低く、また回答数自体が少ないので同等の評価はできないが、旧高松市街地部より、郊外部や離島部は、公共交通に不便を感じている割合が高いという結果がでた。

意見・感想

- 高松の公共交通は、運転免許を持たない１０歳代が中心となっているのではないか。
- 在職者・運転免許所有者ほど、公共交通が交通手段の選択肢の一つとなりえていない。

グラフから読み取れること

- 子どもが居る家庭(暮らし)の方ほど、評価点数は低い印象がある。
- 全世代通して低い評価(即ち優しい運転がない)を付ける割合が多い。
- 男性の回答では、優しい運転があると評価点をつけている層も見受けられる。

意見・感想

- 予想していたが、全体として評価点が低い印象であった。評価点が高くあった方については、全般的に高松への評価が高く、転勤等による移住者の回答とも見えた為、この回答が1年後、3年後の生活で変動があるのかどうかも気になるところである。逆を言えば、高松生まれ育ちの方は、運転に対してネガティブイメージである為、効果的な施策をつくり 実施する必要性があると思う。

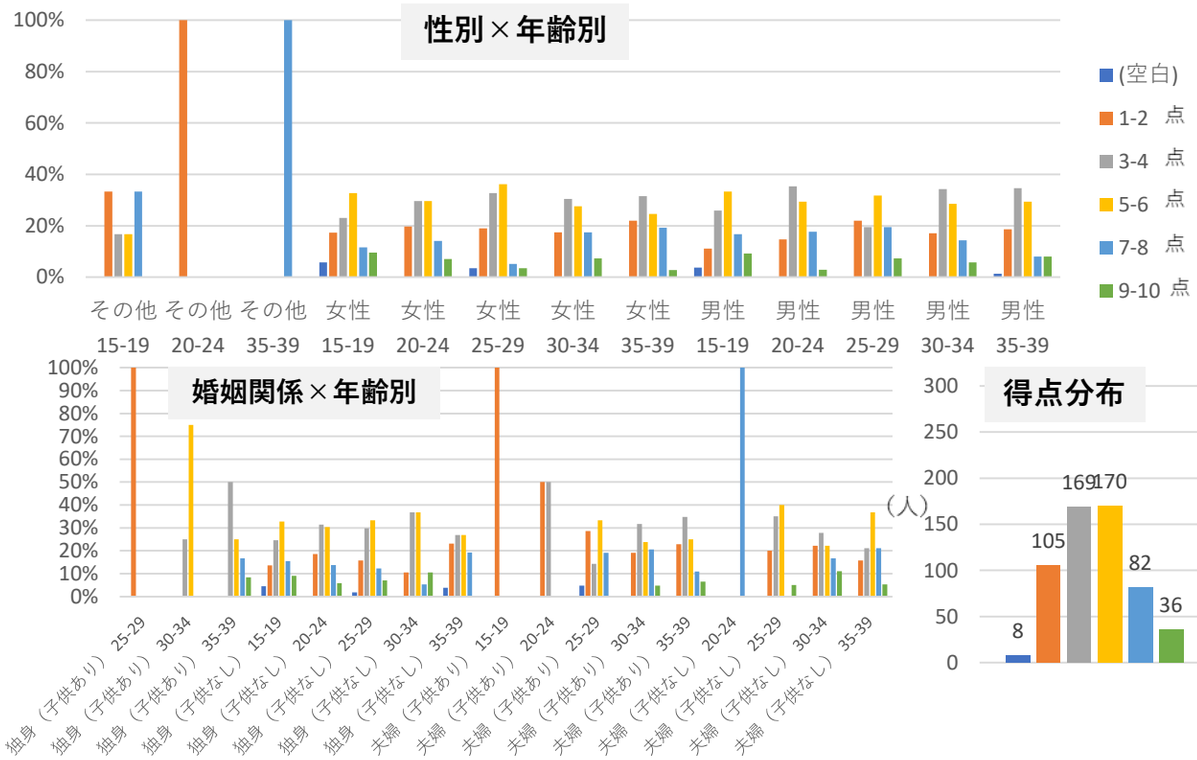
高松市通信簿とは？

様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Ｑ２７：高松は、交流が生まれやすい街か？

平均点 ***4.69*** *点*



グラフから読み取れること

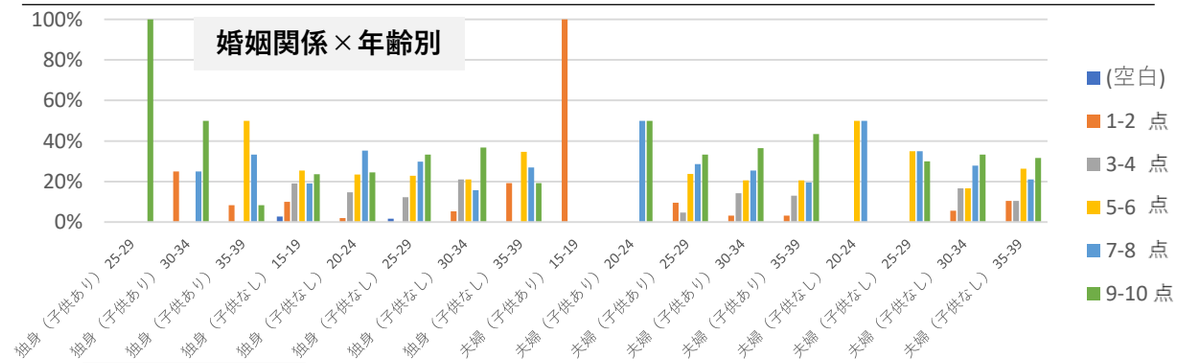
- 全世代、性別関係なく、疎らな点数である。
- 子どもの有無状況をみると、子どもが居ない家庭(暮らし)の方が、点数は高くついている割合が多いようだ。
- 独身男性２０歳代の世代が高い点数をつけている印象。

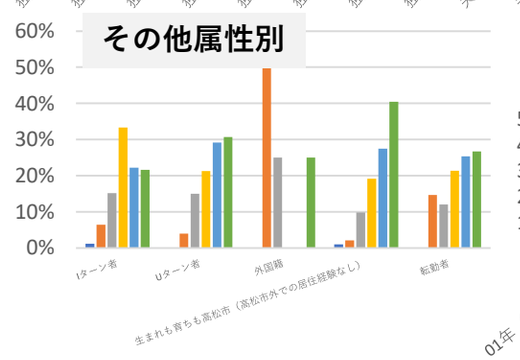
意見・感想

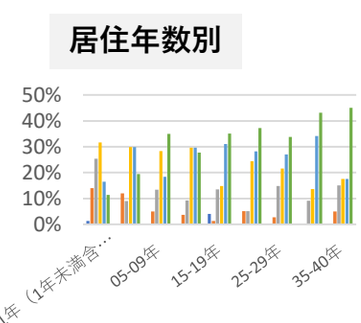
- そもそも自身が人と交流を持とうとしているか否かで、評価点数に大きな差があるように思う。
- 子どもが居る家庭だと、交流の生まれやすさを感じない割合が多い為 子育てに対して前向きになりにくいのかもしれない。
- 交流が生まれやすいことで生まれる街の良さを提示出来ることが、この設問に対しての課題なのかもしれない。

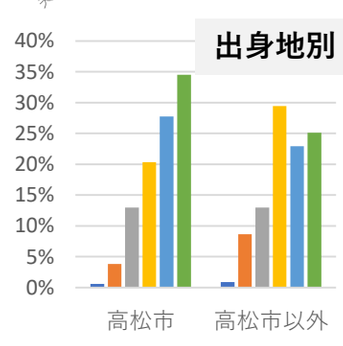
Ｑ２８：高松は、住み続けたい街か？

平均点 ***6.81*** *点*









グラフから読み取れること

- 夫婦やファミリー世帯は「住み続けたい」が多いが、独身世帯は多くはない。
- 生まれも育ちも香川、Uターンの方は「住み続けたい」が多いが、外国籍の人や転勤族のデータは極端
- 長期で住むと満足度が高くなっており、全体として、９～１０点の割合が最も多い。
- 年齢別には、１５～１９歳は評価がまばらであるが、２０～２４歳になると、7~8点が最も多く、年齢が上がると９～１０点の割合が多くなるものの、３５～３９歳になると、９～１０点の割合は減少し、５～６点が増える。
- 独身の子供無しは、住み続けたいと思う度合いは低く、３５～３９歳になると、 ５～６点が最も多くなる。
- 職業別で見ると、「大学生・大学院生」も評価はまばらである。また、「パート・アルバイト」、「専業主夫・主婦」もまばらな結果となっている。

意見・感想

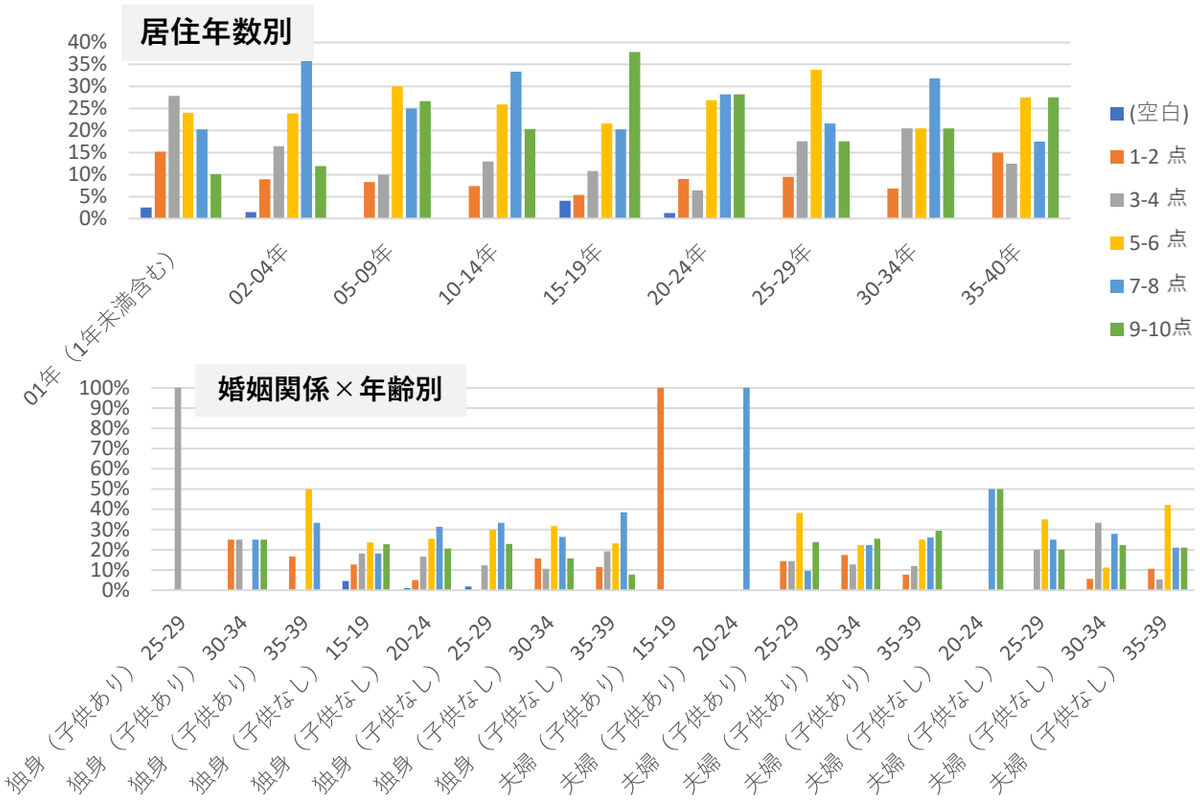
- 住み続けたい町ではあるがおススメは微妙という、可もなく不可もなくな現在の高松がそのまま数字に出ているなという印象（Q29と連動）
- 夫婦やファミリー世帯が「住み続けたい」が多いのは、家を購入したり、仕事や学校等の関係で、その地域に住まないといけない状況にあるというのが大きな要素となっているのではないか。子供がいない独身層は、年齢が上がると住み続けたい割合が増えるものの、35~39歳になると一気に減少しており、特に高松へのこだわりは無く、魅力も薄れ、ただ仕事があるから、実家があるから、高松にいる状態なのではないか。
- １５～１９歳の学生や独身で子供がいない層については、高松で住み続けたい度合いは小さく、県外志向が強い、もしくは、県外からの学生が多いのではないか。また、独身世帯の方が、居住地を変更しやすいため、街の魅力や愛着が伝わらなければ、転出されてしまう。独身世帯にも住み続けたいと思える施策が必要なのではないか。
- パートアルバイト、専業主夫・主婦については、転勤族の帯同者か、地域へのこだわりは特に無いのか、不明である。

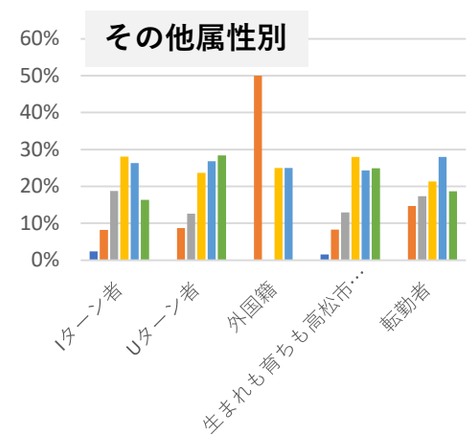
高松市通信簿とは？

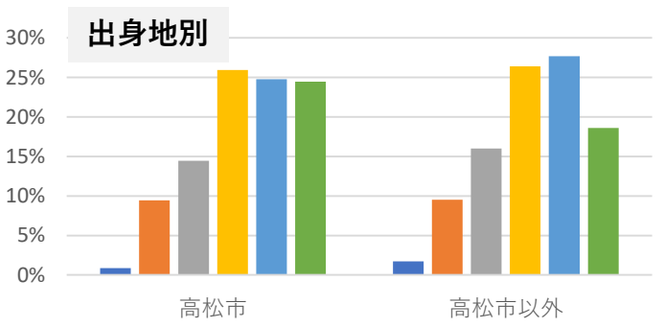
様々な項目において、「若者」が高松を１０段階の点数で評価しました。私たち若者の声を見える化することで、私たちがいまの高松をどのように思っているのかを示しています。

Takamatsu Youth Voice

Q２９：高松は、あなたが移住やUターンをお勧めしたい街か？　*平均点 6.25点*







グラフから読み取れること

- 夫婦やファミリー世帯は「住み続けたい」が多いが、独身世帯は多くはない。
- 生まれも育ちも香川、Uターンの方は「住み続けたい」が多いが、外国籍の人や転勤族のデータは極端
- 長期で住むと満足度が高くなっている

意見・感想

- 住み続けたい町ではあるがおススメは微妙という、可もなく不可もなくない現在の高松がそのまま数字に出ているなという印象

第5期を終えて(会長挨拶)

Creative City Takamatsu

今年で10年目を迎えた高松市創造都市推進懇談会(U40)。これまで、私たち将来世代(40才未満)の目線から行政への意見・提案を行い、時に自ら事業提案から実施までを担ってきました。

U40の第5期は、まさにコロナ禍に始まりました。
世の中の先行きに不安を感じる中、「高松をより良くしたい」その純粋な想いを持った有志の集まりです。

これまでU40は各分野の専門家が会議室に集まり議論を重ねてきました。第5期では「市政と若者のハブ」の役割として会議室を飛び出し、人口構成の中で「マイノリティ」である若者世代の声を広く集め市政に届けること、そして市民の中で水面の波紋のように街づくりの議論がひろがることを目標としました。

若者世代が少数派となった今だからこそ、私たちが高松の今をどのように思っているのか、率直な声を顕在化したいと考えました。

前半の会議では、私たち自身が高松市の現状についてより深く理解するため多くのゲスト講師をお迎えしました。後半では、それぞれのメンバーが感じる高松市の課題とキャッチコピーを考え、それを基にU40世代にアンケートを作成、実施を行いました。

結果、500名を超えるU40世代がアンケートに参加、設問への回答はもちろん、自由回答ではそれぞれの想いを率直に届けてくれました。この結果は高松市長に確かに報告いたしました。

アンケート回答者を始め若者世代に対して市政側がどんなリアクションを返すのか、今後生まれる変化にワクワクせずにはいられません。

任期２年間、集まれる機会はわずかではありましたが、今までになかった「市政と若者」の新しいコミュニケーションの創造の第一歩を担えたのなら、これほど嬉しいことはありません。

第5期に関わってくださった全ての皆様、そして第5期メンバーに対して心からの感謝をお伝えします。

第5期会長　穴吹英太郎